＜画　川口麻里亜（総合学科 16 期）＞

I

学校設定科目「私達が立っている場所」開講 25 周年記念

「私達まつり」特別企画　卒業生アンケートから

ごあいさつ

「私達が立っている場所」の授業を振り返ることばを募集したところ、多数の受講者のみなさんから返信をいただきました。そのどのことばにも高校時代を始まりとしたひとりひとりの生活史が語られていました。もうすでに「私達まつり」の開催は準備されているようでした。

みなさんの文章に触発されて、「私達が立っている場所」という授業について、私自身の生活史をまじえて少し書きたいと思います。10 代の私は本ばかり読んでいました。人間と社会、自分自身をどうとらえたらよいのか見当がつかず、悩み、考えていくつかの小説めいたものを書いたりもしました。そんな私を救ったのは、高校時代の尾谷誠基先生の国語の授業でした。先生は文学作品を共同で読み進める演習授業を通して、人とともに持つことばの凄みを私に教えてくださいました。私ひとりのことばから、人とともに持つことばへ。つづく大学時代は読書会、文学雑誌の発行、映画づくりと、人とともに活動し、さらに私のことばは開かれていきました。

そんな私が国語の教員となり、次世代に生きる人のことばを鍛えることを職業とするのは、自然であったかもしれません。「次世代とともに生きることばを紡ぐ」という論理は、それが困難な状況のなかでどう可能かという生き方の問題となりました。「論理は終わった。あとは運動として生きるだけだ。」と大学時代の友人に宣言して私の大阪での教員生活は始まりました。

4 つの学校を経験しました。ことばは人間の性質、資質、成育の過程などからさまざまにあらわされます。私は、獲得したことばを蓄積してよりよく生きてほしいという願いをもとに、特別な場面をつくってことばを共有することを常にこころがけて授業を続けました。国語には、単元的な学習という深い蓄積があります。名のある、また身近な先輩方の実践の場面と指導のことばに大きく勇気づけられたことは言うまでもありません。つたない実践のなかから、「私達が帰っていく場所」「私達が立っている場所」「私達がつくっていく場所」という単元の着想を得ました。たしか 35 歳の時だったと思います。「帰っていく場所」は、主に古典を教材にしながら自身の根拠を見つめる授業です。「立っている場所」では社会の課題を明示し、どう生きるかを考えます。「つくっていく場所」は、今後の自身を構想し、ことばにする学習です。これらの 3 つの単元を通して、若い学習者のことばを鍛え、次世代とともに私も救われ、豊かに生きることにつなげたいと考えました。なかでも「私達が立っている場所」は、3 つの中心ともなる単元で、今宮高校で国語科学校設定科目として受講者とともに育ち、25 年を迎えました。

みなさんからの文章をまとめた今回のデジタルブックをみなさんがお互いに読み進めること、広く世代を超えて読んでもらうことは、みなさんがこの時代を悩み、考えて懸命に生きたこと、人とともに生きたことの証しとなります。自分が考えていたことは誰も考えていたことだった。しかし、（あるいはそれだから）誰もが考えていたことに自分がたどりつき、自分のことばとして話し出したことは、自分にとって、またそれに耳を傾ける人にとってかけがえのないことだった。「私」が「私達」になり、「私達」のなかに「私」を見いだす経験が「私達」の社会を構想する起点となります。そのことばと、そのことばを生み出す場面をつくりつづける運動を通して、私は次の世代のことばの生活に資したいと思います。

小山秀樹

目次

ごあいさつ

1　私達はなぜ「私達が立っている場所」を選択したか！？ ―――― 6
　記述に見る選択理由
　統計編

2　「私達が立っている場所」にはどのような学びがあったか。 ―――― 7
　記述に見る学びのすがた
　統計編

3　「私達が立っている場所」のベスト授業はこれだ！！ ―――― 8

4　「私達が立っている場所」の授業は卒業後から現在まで、こんなかたちで生きています！！
（「私達」の生活史：「私達が立っている場所の学び」編） ―――― 9
1. この授業で、谷川俊太郎の詩を読む機会がありました。
2. 端的に言えば、論理的かつ多元的に物事を理解するための視点論点
3. 私は読書が好きで、読解問題を解くのは大得意でしたが、
4. 初期に受講しました。丸山真男の読み込みはとても印象に残っています。
5. 複雑な文章を読み込んでいく、そして他の人に自分の思考を伝えるという経験
6. 作家になれました。
7. 「私達が立っている場所」は、テキスト及びプレゼンテーションにおいて非常に″″感慨深かった″″
8. 20 年近く経ったこともあり、具体的な授業内容は忘れてしまっているのですが、
9. 高校で受けた授業の中でも特に印象に残っている授業で、
10. 自分たちで考える、読み解くことを学び、現在の職業生活の中で答えのないものに向かっていく力
11. これまでに、この授業が役立ってるなぁと思いながら生活してきた訳ではありませんが、
12. 大学でのグループ発表がスムーズだった。
13. 私は国語教師になりたいという夢をかなえ、現在大阪府の国語科の教員として働いています。
14. 「私達が立っている場所」の授業は、一年間 2 単位の授業だったと思えないほど、私の人生に影響を
15. 「私達が立っている場所」の授業で学んだ内容というのは、手元に資料のないいま
16. 「私達の立っている場所」は、私にとって、最も影響を受けた中等教育の授業です。
17. 大学生の時期、良く政治学の教授のゼミ室にお邪魔してました。
18. 学部生であることが研究することへの足を引っ張ることがありました。
19. なかなか「できてる」とは言えませんが、「現代の価値観だけで過去の話をしないようにする」
20. 作品を読み取り自分の頭で考える、他人の意見を聞いて理解を深める、
21. 既成の概念が揺らぐとき、パラダイム論のことを思い出しては

22. 「私達が立っている場所」を受講して「私達が立っている場所」が余計分からなくなった。
23. 授業名について言及すると、「私達がいる場所」ではなく「私達が立っている場所」である。
24. 高校の時と比べて、私の立っている場所から見える景色は変わった。
25. ものごとを学ぶ意欲や姿勢に繋がっていると感じます。
26. 「私達が立っている場所」の授業を受けて、「文章って人に伝わるように書くものなんだな」
27. 正直に言って、「私達が立っている場所」の学びが卒業後に生きた点について
28. 小山先生、お久しぶりです。
29. 今後の人生についての悩み事などがあった時に、
30. 放課後に班員で集まって、課題を何度も何度も読み込み、話し合い、先生にダメ出しを受けながら
31. 訴求力のある文章を作成するための能力が養われた
32. 「私達」は単なる学校の教科ではなく、「意味を伴った『ことば』を理解し、話すこと。書き記すこと」
33. 文章を読み込み、自分なりに解釈して周りの人に伝える力をつけることができたことで、
34. 正解のない問題に取り組む体験ができた事が大きかったと思います。
35. 学校に通い学びを深めること。働きお金を稼ぐこと。こういったことはどんな事も『目的』ではなく、
36. 現在の社会問題を自分事として深く考えるようになった。
37. 1 つの話を徹底的に噛み砕き掘り下げる作業は、
38. 文学を楽しめるようになった。
39. 権利や自由について考えるときがあります。
40. 振り返ると、こうして実生活とつなげて思い返せる授業を受講できて、とても幸せだなと思います。
41. 「私達が立っている場所」の授業は、最初は難しいと思うことも多かったですが、
42. 当時は取り扱っていたトピックの面白さを理解していなかったように思いますが、
43. 過去の事故や事例を学ぶ時、毎日ニュースを見る時、
44. テストが自由記述形式だったので、大学のテストや現在仕事で報告書を作る際に
45. 授業において、教材を深く読む力がついたと思っております。
46. 大学では文学を専攻していたため、文豪の文学作品はもちろん、
47. 知識を得る授業というよりは、考える力がつく授業だったので、
48. 在学当時に宮崎駿の「君たちはどう生きるか」が映画化されると知り、
49. 大学の日本語の授業で、「私達が立っている場所」を思い出しながら課題に取り組んだところ、
50. 「君たちはどう生きるか」という物語に出会えた場所です。
51. 私は目指す大学の受験でグループディスカッションがありましたが
52. ハーバード白熱教室で主要な倫理観、道徳の価値観を学べたことは、
53. 本を読むのが少し楽しくなりました。
54. 物事の本質を言葉で捉える力が身についたと強く感じる。
55. 今宮高校卒業から 10 年以上経ち、当時の記憶が曖昧になっていますが、
56. 私の中で私達での学びは、活きたどころか、ここ数年根付きすぎてむしろ少しムカつくような感情が
57. あるトピックについて、グループで一心に読み解き、自分では思い至らない意見を知り、
58. グループで足並み揃えるのが難しかったです。
59. グループでの活動が多かったので、他の人の意見を聞く力が身についた。

60. 班のメンバーで考えを共有し合ったので、コミュニケーション力や表現力をつけることができ、
61. 私は教育学部の国語の選考を受験しました。
62. 「である」ことと、「する」ことのような授業で取り上げた問題が
63. 「君たちはどう生きるか」というジブリの映画をみたときに、
64. 「私達が立っている場所」では文章を読む力がついただけでなく、
65. まさか大学でも「私たち」をすると思いませんでしたが、
66. 物事に対する見方が少し変わった気がする。
67. 本を読んでいる時、どこがどう大切なのか、筆者はどう考えているのか
68. ○今まで“当たり前”と思っていたことが育った地域や時代、環境によって
69. 「私たち」の授業で、レベルの高い文章を扱うことによって、
70. 私には、私達の授業の学びが生きたと感じた場面が 2 つありました。

5　「今宮高校の学び、今宮高校の思い出」を持って、私達は今こんなふうに生きています！！
(「私達」の生活史：「今宮高校の学び」編) ―――――――――――――――――――――――――――― 31

1. 「輝け個性」個を大事に学ばせてもらったことが今にも繋がっています。
2. 私は総合学科 3 期で、小山先生は 2 年生の時にお近くの超難関校から赴任されてこられました。
3. 今高生は、自分の意思を強く持っている子がとても多かったように思っています。
4. 総合学科という、自分で授業を選択するという仕組みが
5. 「私達」を受けたために（おかげで）先生になった
6. 今宮高校で出会った友人は一生の友人になりますので、
7. ”輝け知性、磨け個性“入学からずっと変わっていない今宮高校のこのスローガンがとても好きだ。
8. 自由でありながらも、授業や行事、部活をはじめとする学校生活を自分達で考えて行動する
9. 授業では、「私達」以外では、丸谷先生の「こころ」、三宅先生の「伊勢物語の芥川の段」、
10. 今思えばこうだったなと思うことが多々あります。
11. 今年頭に帰省した際、たまたま村上陽一郎「歴史としての科学」のプリントを見つけました。
12. 自分たちの力で様々なことを作り上げる経験ができた
13. 私はあまり良い生徒ではなくて、いつもバイトや自己学習に夢中で、
14. ①学年主任の先生に「入学時から一度も全校集会などの開始時刻が遅れたことがない、
15. アンケートの回答がすっかり遅くなり大変申し訳ないです。
16. 高校生の時、新しいことに挑戦したいと思い、スペインへ留学することを決めました。
17. 今宮高校での学びが、(「私達」に代表されるように）既存の価値観を問い直し、
18. 人生において多分な影響を受けています。
19. 「私達」の授業中に小山先生が話されていたことでよく覚えていることの 1 つに、
20. すみません記述方法まちがいました。
21. 今宮高校の学生はとにかくよく話しながら考えた思い出がある。
22. 執行部で執行部らしく在れたことはとても良い経験でした。
23. 色々ありますが、自分にとって印象的な学びの一つとして以下を挙げます↓↓
24. 総合学科の良さは、大人になってわかるような気がします。

25.自主的に選択して学び、活動に参画したり、挑戦できる場として今宮はとても良いと思っています。
26.今宮高校の生徒に考え自由に学ばせる校風は本当に素敵だなと、今も思っております。
27.今となってはどんな出来事も最高の思い出です。
28.Web 回答の際にきちんと書き切れなかったため改めて郵便でお送りします。
29.個性を大切にするという点と、自主性は今宮高校を通して学びましたし、
30.当時 3 年生で授業を受け、受験の科目で現代文を多く受けたので、
31.私は今宮高校で生活する中で、たくさんの先生方にお世話になりました。
32.自分の意見をなかなか言えない子がいて、恥ずかしくて言いたくないのかな、と思っていたけど、
33.自分の人生や生活の中の指針として「私達」の授業で学んだことが根付いていることを感じています。
34.（拙い文章ではありますが、なるべくダイレクトに私の高校時代に体験し、感じたことを綴りました。
35.大学の授業でもグループで話し合い発表する機会は沢山ありますが、
36.確実に身についた能力の 1 つとして「文章を読み込む力」があげられます。
37.今大事なことは何かを常に考えることができ、それを言葉で誰かに伝えることができる。
38.私達の授業について、これは少なくとも精神的には有意義な感触が得られそうだぞと、
39.今宮高校では、探究の授業のように皆んなの前で発表する機会が多かったので、
40.今高生はみんなコミュニケーション力が非常に高く、行動力もあるので、
41.授業で取り上げられた作品のように難しい文章を読んだことがなかったので
42.今宮高校でのグループワークの経験が大学で活きた。
43.小山先生。ご無沙汰しております。
44.今宮は総合学科であることから授業選択の幅も広く、勉強も学校行事も自由度が高かったです。
45.私達の立っている場所のグループワークを通して、
46.「文学のふるさと」や「安楽への全体主義」は
47.私は、受験を、総合型選抜で受けました。

6 P.S. ―― 46

1　私達はなぜ「私達が立っている場所」を選択したか！？

記述に見る選択理由

・2 年生時に古典発展を受講し、その際「私達」についての紹介があり、興味を抱いたためです。
・科目名に惹かれた。言葉に飢えていた。人生の糧や指針になるものと出会えそうだったから。
・現国？現代文をとりたかったが、他の選択科目とかぶっていた為
・現国の代わりに、とかだったと思います。
・現代文がつまらなかったから
・古文を取りたくなかったので
・国語が得意だったから
・今宮らしい特徴的な授業というイメージがあったから。
・最初は普通の現代文の授業を選択予定でした。しかし、希望者が少なく閉講の危険性もあるとのことだったか、一つ上の先輩たちが「私達の授業はおもしろいよ」というビラを手書きで作り、それが HR で配られ、その紙をきっかけに私達を受講することを決めました。その紙が非常に印象的でした。普通の現代文よりレベルが高いということにも、我こそはという自尊心をくすぐられ、受講しました。
・受験としての国語ではなく、思考力が身につきそうで、興味があったから
・受験に留まらない学びを得たかったから
・説明会か何かで小山先生の授業に関する説明を受けて、単調な現代文の授業よりも面白そうで、「こっちの方がいいんじゃないかな」と思って取った記憶があります。
・二年生の時の小山先生の現代文の授業に感銘を受けたからです。小山先生の授業を受けるまで、国語という科目に対して興味も能力もそこそこにあったと思いますが、どこかハマれていない自分がいました。今考えると、それは文章の伝えたいことは理解しているが、言葉が日常生活に根ざしているものであると認識していなかったためだと思われます。つまり、小山先生の授業は、教材を通して、論理/思考/言葉を、自分でどう生活に広げるかまでをサポートしてくれたと感じています。『真正の学び、授業の深み』で言及されていた「日常生活とつなぐことばの学習」という授業目標が達成されていたのだと思います。
・楽しそうだったから

統計編

1. 現代文の力をつけたかったから。（50 名）
2. グループ発表など授業の方法に魅力を感じて。（20 名）
3. 担当者（小山）の授業をとりたかったから。（16 名）
4. 学校設定科目をとっておきたかったから。（15 名）
5. 先輩や先生からのアドバイスがあったから。（14 名）
5. その他（14 名）
7. なんとなく。（7 名）

（回答者数 69 名　複数回答可）

2　「私達が立っている場所」にはどのような学びがあったか。

記述に見る学びのすがた

・「グループワーク」としての成果はあまり得られなかった記憶があります。題材になっている文章や国語という科目自体への、メンバー間の熱量のギャップを感じ、ほとんど一人で読解・資料作成に臨んだ時もありました。みんなでやるより一人でやる方が効率的で、クオリティが上がるのではないかとまで考えていました。しかし、メンバーから出た発言には驚かされることもあり、新しい視点を得たことも事実としてありました。そのため、他人を巻き込みながら、ひとつの成果物を作り上げるという行為自体にはとても価値があり、自分の中の課題として、克服すべきことだと学ぶことが出来ました。
・「私達」でのグループ活動を通して、社会における自分や他人の役割意識を持つようになった。
・〇〇ができた，達成できたというより、それぞれの難しさに直面、経験したという感じが強い。もっと深く掘っていきたい気持ちと自分の言葉にしていく力の至らなさを痛感する日々でした。
・リーダーシップの難しさを経験できた。
・一つの題材を、ここまでしっかり読み込み考える機会がそれまでなく、良い体験になった
・国語的正しさにとらわれず、想像力を持ち、抽象的な文章を自分ごとに置き換えて具体化する癖がついた。国語のテストは文章から論理的に答えを導くことが求められるが、私たちの授業は文章から想像力を働かせることも期待されていた。こゝろでは、襖の開き度合いは心の開き度合いを表していると同級生が発表していた時、はっとした。私にはない考え方だった。
・作者や表題の言葉単位でも知っていることで、何かのきっかけにパッとワードが出たときには改めて読んでみようかなと思うことができ、今の自分はどう思うかとギャップを確かめ、自分の成長を辿ることができる点で、先行投資のような学びがあったと思います。
・授業で取り上げられたテーマには、それまで自分が抱いていた価値観と合致するような部分が多分にあり、より信念的に考え方を固められたこと、漠然としたイメージを授業の理解を通して具体化できたことなども印象的な学びだった。ただ、全く同一化して取り込んだとか表面的にこじつけて楽しんでいたとかいうことではなく、似た部分や違った捉え方などから自分の考え方を顧みたり、背景の違う多様な主張を理解して受容しようとしたりといった手立てを用いるようになった。そもそも似ているということは決して同じではないということなので当然かもしれないが、この姿勢も学びだった。
・読み込む力がついただけでなく、読み込み方を学び、本の中にどっぷり浸かる楽しさを学びました。
・読み込む力に重複しているかも知れませんが、誰かが何かを主張しているときに安易に迎合せずその本質を判断するための力が養われたと思います。また、訴求力のある文章を作成するという観点でも大いに役立っております。
・評論で得た問いを実生活・社会と繋げて考えることが出来た
・普段自発的には読みにいかないタイプのテキストに触れることができた。
・文学を楽しめるようになった。
・学術的なことを真剣に話し合うことで友情が芽生えた
・現代文の受験勉強はこの授業と漢字勉強だけしていました！！！卒業後も現代文の力が維持されていると感じます。

・人前に立って、話すことがすきになった。自分の意見に根拠を持つことの大切さが再認識できた。

統計編

1. 教材を読み込む力がついた。(51 名)
2. グループで話し合うことにより、仲間と学び合うことができた。(32 名)
2. 発表やプレゼンテーションの能力を身につけることができた。(32 名)
4. 課題を取り上げ、解決する道筋を考えていくことができるようになった。(31 名)
5. 現代社会に対する問題意識を持つことができた。(26 名)
6. 必要な事柄を資料としてまとめる力を身につけることができた。(22 名)
7. 時間がない状況で協力して学習する力を身につけることができた。(19 名)
8. 現代文の力がつき、受験に役立った。(17 名)
9. その他(14 名)
10. 期待したほど学べなかった。(1 名)

(回答者数 69 名　複数回答可)

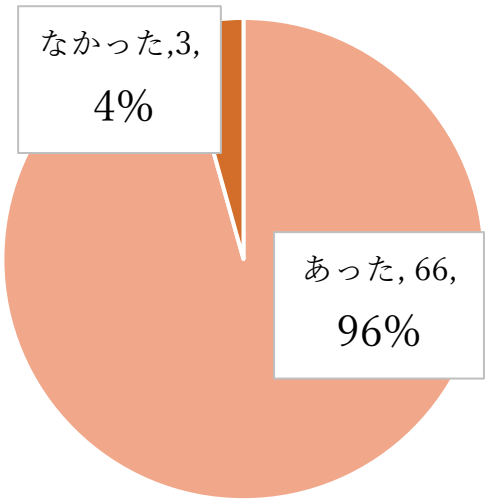
3　「私達が立っている場所」のベスト授業はこれだ！！

1. グループ発表「『である』ことと『する』こと」丸山真男（制度の自己目的化・価値の蓄積）(52 名)
2. 読書とスピーチ「君たちはどう生きるか」吉野源三郎（人間は水の分子・油揚事件）(38 名)
3. グループ発表「歴史としての科学」村上陽一郎（パラダイム論・対自化・知的冒険）(29 名)
4. 講義授業「文学のふるさと」坂口安吾（救いがないことが救い・大人の仕事）(27 名)
5. 講義授業「安楽への全体主義」藤田省三（能動的ニヒリズム）(13 名)
6. 講義授業「パニック」開高健（ネズミの大移動・組織と人間）(12 名)
7. 講義授業「テクストについて」中島俊（人間はテクスト的存在）(4 名)
7. オープンスクール体験授業 今宮高校合格必勝マニュアルづくり(4 名)
9. 講義授業「バッタと鈴虫」川端康成（光の戯れ・恋愛の駆け引き）(2 名)

(回答者数 69 名　複数回答可)

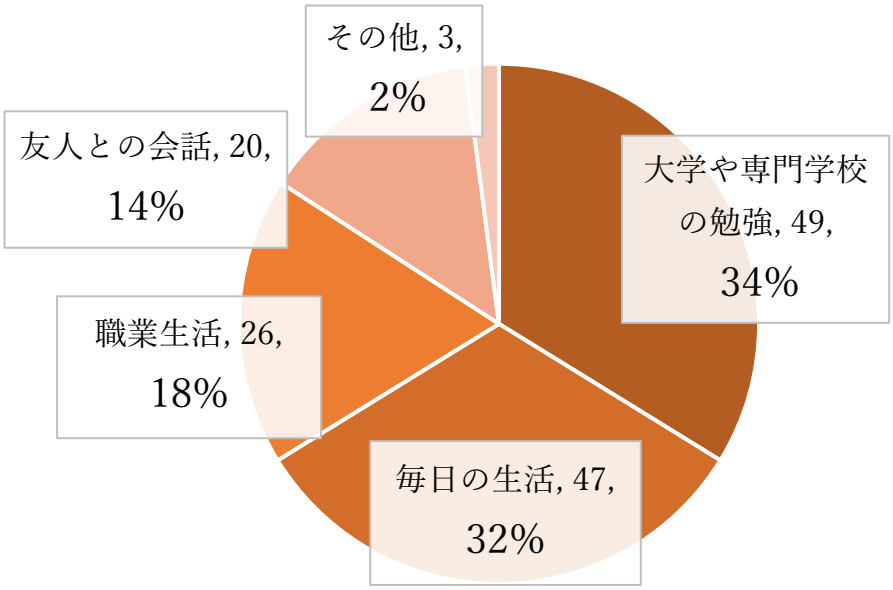
4　「私達が立っている場所」の授業は卒業後から現在まで、こんなかたちで生きています！！（「私達」の生活史：「私達が立っている場所の学び」編）

「私達が立っている場所」の授業が、卒業後 から現在までの間、生きたと感じたことはありましたか？



（回答者数 69 名）

それは、どのような場面で生きたでしょうか？



（回答者数 66 名　複数回答可）

総合学科 3 期

1. この授業で、谷川俊太郎の詩を読む機会がありました。特に「みみをすます」が大変好きでそれ以降、谷川俊太郎が今でもずっと好きです。海外の絵本の訳詩もされていることを知り、その絵本を読んだことがきっかけで、その他の絵本の魅力も知ることができました。

3 期生で選択している生徒の人数も少なかったため、グループ発表ではなく個人での発表であったと記憶しています。

今宮高校生活全体としても、比較的考えたり調べたりして発表する機会は多かったですが、特に「私達が立っている場所」では一つの題材について時間をかけて考え、自分の意見や考察を発表するような内容でした。それまで私は、周りの人と意見が違う時に、主張するようなことは避け合わせてしまう方でした。それが、この授業の発表を通して自分の考えを聞いてもらえる喜びや、自分と違う考えを聞く面白さを知り、違いを認め合う、違いを知る尊さを体験し今に繋がっています。加えて、発表やプレゼンテーションすることへの苦手意識がなくなりました。

2. 端的に言えば、論理的かつ多元的に物事を理解するための視点論点を養うことができたと思う。

同志社大学に現役進学したが、周囲には私と同じ国立大学を不合格になった者、同志社に入りたいと全国から学生が集まってきていた。20 年余前のその当時、学生どうしで交わされる会話には専攻分野でなくても、普通に丸山真男や小林秀雄が登場したし、フーコーの構造主義、ポストモダニズムなどの社会思想の討論会もあった。この種の話題はこの授業を経験していなければ表層的な理解で終わっていたと思うし、基礎があったからこそ内容の充たされたものになったように思う。その面で、国語という媒介を通じて、現代社会の様相や基本的な思想の潮流を学べたことは「教養」という点で役立った。また、授業のテストや課題では結構な量の記述を求められた。限られた時間の中で論点構成や文章表現などをまとめることは学生時代の卒論や課題レポート（90 分で原稿用紙・ペン書き・修正すると減点など、パソコン作成不可の講義も 8 割くらいありました）や、今の社会人生活においても昇格試験や報告書や稟議書の作成時にも機能していると思う。

総合学科 4 期

3. 私は読書が好きで、読解問題を解くのは大得意でしたが、国語の時間を楽しいと思ったことが、高校 3 年生まで 1 度もありませんでした。現代文の答えは文章の中にあり、間違えるわけがないと思っていたからです。ですが、「私達が立っている場所」では、簡単に答えが出ませんでした。とにかく考え、掘り下げ、さらに考え読み進め、沢山書きました。現代文の問いに出てくるようなことだけでなく、一文に込められた意図や思いを考えました。初めて、国語の授業が楽しいと思いました。「私達が立っている場所」では、本の読み方、文章との向き合い方、文章を書く楽しみを学んだと感じています。これは、今でも私の生活を豊かにしてくれていると感じています。

本の世界にどっぷりと浸かることができました。また文章を書くことが好きになり、教員の仕事でも生かされています。自分の子どもにも文章の読み方、深め方を伝えています。

総合学科 7 期

4. 初期に受講しました。丸山真男の読み込みはとても印象に残っています。初見は難解に感じましたが、

一行一行と向き合う経験は貴重でした。今も仕事の中で、相手が語る「問題」と「課題」の違いを整理したり、文章の中の何気ない動詞から書き手の意図を読み取ったりと役に立っています。受験は設問から、該当しそうな箇所の接続詞をヒントにして、答えを速く導き出す事が多かった記憶ですが、この授業はその文章自体から考え、前後や全体を俯瞰と虫の目で見ることが出来たと感じます。
社会人が長くなると、毎日仕事も私生活もスピード、スピード、と処理能力を速める点を重視し１日・1年が過ぎていきますが、高校や大学で若く時間があるうちに、じっくりと学ぶ余裕と、伴走してくれる先生がいる事はとても意味のある事だと感じます。

5.複雑な文章を読み込んでいく、そして他の人に自分の思考を伝えるという経験は、その後の大学生活や就職後も役立つものだと思います。
　表面的な理解に留めず、しっかりと考えて思考を構成することの大切さを感じた記憶があります。常に気にかけているとはお世辞にも言えませんが、いわゆる「ファスト教養」との問題提起がされる今の方が、そうした思考法の重要さを強く感じるようになりました。

総合学科８期

6.作家になれました。

7.「私達が立っている場所」は、テキスト及びプレゼンテーションにおいて非常に″″感慨深かった″″と記憶するものの、中身については正直なところ失念してしまっていることが多い。しかしその中で、丸山真男氏の、「制度の自己目的化」は卒業後も何度も思い出した言葉であった。社会情勢を捉える中で、或いは、社会人として組織で働く中で「制度の自己目的化」に遭遇することは何度もあったように思う。
　丸山氏は「する」ことで初めて「である」ことを示されたが、一方で慢性的な「する」は「である」の質を劣化させ、やはり本来の「である」たり得ないという、そのような意味での「制度の自己目的化」が生じているように私は思う。
　世界を震撼させたコロナ禍において、飲食店への圧力とワクチンの推奨という政府の施策は実際のところどれだけの抑止効果を生んだのだろう。″″何も対策をしていない状況を打破するため″″の表面的な対策感が拭えない。
　また職場では毎年様々な研修が多くの時間を割いて行われるが、その中身について一体何人が、″″実践″″し、″″現場に活かす″″ことができているのだろう。ここでもまた「することに意義がある」「していることで論が立つ」という風潮が拭えない。
　数年前にあるクリスチャンの方の自伝を読んだ。それは、世界的に有名な「Footprint(あしあと)」という詩を生んだ彼女が、その詩の作者として認められるまでの経緯について書かれた本であった。以下概略。
　彼女はかねてから趣味で多くの詩を作っていたが、引越しの最中にその資料を全て紛失してしまう。数年後ふらりと入った書店で、自身が作った Footprint の詩が額縁に飾られて販売され、裏には見知らぬ者の名が作者として記されているのを目にする。その後、たくさんの″″作者″″を名乗る人々の名とともに Footprint の詩がカードや食器、ポスター等の形をとって販売されていることを目にし、大きなショックを受ける。彼女はこれ以上著作権の侵害がなされないよう弁護士を雇って法的手続きを進めること

にする。そして遂に、彼女を積極的に助けたいと切望する著作権専門の弁護士が現れ、自分が作者であるという決定的な証拠が見つかったそのとき、彼女は「神は何を求めているか、聖書はクリスチャンの兄弟たちを法廷に引き出すことについて何と言っているか」ということに立ち帰る。そして、訴訟を起こさないことを決断する。

クリスチャン「である」が故に、権利を行使「しない」ことを選んだ彼女の姿に、多くの人が心打たれたであろうことは想像に難くない。

「である」ことと「する」ことからの学びが、丸山氏の種々の指摘が、実際に自身の在り方としてどのように生きているのかと問われれば、これまでの自分の歩みを顧みて恥ずかしさを感じずにいられない、というのが正直な答えである。しかし、「である」ことと「する」ことは、生活の様々な場面の中でふと心の引き出しから取り出し、考える視点を与えてくれる教材となっている。

「権利の上に眠る者」でなく、実態のない制度を「する」ことで保ち続ける者でもなく、自身の信ずる道の故に「しない」ことを選んだ先人のように、″″私の立っている場所″″を問い続けながら歩んで行く者でありたいと願う。

8. 20 年近く経ったこともあり、具体的な授業内容は忘れてしまっているのですが、「私達が立っている場所」という授業があったこと自体はよく覚えております。最近のできごとで言うと「君たちはどう生きるか」の映画公開よりも前、電車内の広告で書影を見た時に思い出しました。これは私の期ではやりましたでしょうか。それとも先生が話題に出されただけでしたでしょうか。小山先生に対しては申し訳ないことに、授業内容そのものよりも、職場や高校時代の友人との会話のきっかけとして役立てている気がします。色んな意見があって、ひとつに決める必要はないし話し合ううちに新たな道が生まれることもあるけれど、捨てなければならないものもある。それでも前に進めていかなければならない。今でもいわゆるディベートは苦手なままなのですが、とりあえず終わるところまでやる腕力と根性、考え続ける体力は、社会生活でも役立っています。社会人となってからも小説は好きで読んでいるのですが、それ以外の書籍となるとつい実用書（プロジェクトの進め方とか差別についてとか）に偏りがちで、実生活にすぐ反映できるわけでもない内容の本をじっくりと読み込み、他の人と意見を交わすというのは、学生時分ならではの得難い経験でした。

総合学科 9 期

9. 高校で受けた授業の中でも特に印象に残っている授業で、文章の本質を読解する難しさと奥深さを学ぶことができました。

受験時の問題読解はもちろんのこと、プレゼン資料等を作る際に使用する参考資料から必要な文章を抜き出す力が身につきました。

総合学科 10 期

10. 自分たちで考える、読み解くことを学び、現在の職業生活の中で答えのないものに向かっていく力や気力をに繋がっているように感じます。

11. これまでに、この授業が役立ってるなぁと思いながら生活してきた訳ではありませんが、今思い返せ

ば、現代文を読む力や問題解決能力、他人に伝えたいことを上手く伝える力の原点は、ここにあったと思います。
今、職業として IT のコンサルティング営業をしていますが、顧客の現状を把握し、課題を見つけ、解決までの道筋を立て、それをプレゼンテーションし、理解・承認してもらう、これら一連の行動すべてに、授業での学びが生きているように思います。

12. 大学でのグループ発表がスムーズだった。
　私は、私達が立っている場所で一緒に受講していた友人ともう 10 年以上文通をしています。高校時代は別々の友人と過ごしていることが多く、卒業後こんなに長く彼女と関係が続くなんて考えたこともありませんでした。当時仲のよかった友人なのに今は連絡が途絶えてしまったということが普通多いと思います。そのような友人は私にもたくさんいます。彼女とは逆で、「私達が立っている場所」と 3 年生の数学を一年間一緒に受講したぐらいしか接点がなかったにも関わらず、卒業する日に私の方から文通を誘い、大学四年間を終えて社会人になってからも文通が続いています。彼女とは、なにか趣味で共通点があるだとか、クラブが一緒であったとか、そういったことはありませんでした。ただ、人間性が合ったということと、ほどよく自分とは波長が違うので興味深いということがあったのだと思います。授業で「文学のふるさと」について彼女と語り合った場面を今でも覚えています。どんな会話をしたのかまでは思い出せませんが、分からない表現について共に頭を悩ませ、ああだこうだと言い合い、話し合う中で、自分の中になにか解釈がはまった感じがしました。「ああ、こういう意味だろうか」という「はまる感じ」を彼女と共有した、と私は思っています。その経験が、彼女と文通を続けさせているのではないかと思います。

13. 私は国語教師になりたいという夢をかなえ、現在大阪府の国語科の教員として働いています。国語科の教員として、実際問題、よほど年間の授業計画を練り、かつ一緒に組む先生に恵まれるか、自分 1 人で担当するかでないと、発表中心のこのような授業は難しいと思いました。前任校で現代文演習を担当しましたが、個人の発表は課したものの、グループ発表まで踏み込む授業計画ができませんでした。毎日の授業で、ああしたらよかった、こうしたらよかったと思うことばかりです。しかし、先日小山先生に久しぶりにお会いし、今宮高校に赴任したのは 40 代だったと聞き、まだまだ私もこれからだなと思うようになりました。私達の授業そのままを私がすることは当然ありませんが、いつか私も自分だけの個性が輝く、生徒たちの主体性のある授業をしようと思います。

14. 「私達が立っている場所」の授業は、一年間 2 単位の授業だったと思えないほど、私の人生に影響を与えました。

15. 「私達が立っている場所」の授業で学んだ内容というのは、手元に資料のないいま正直のところ詳細に思い出すことができていないのですが（小山先生申し訳ありません！）、当時触れた作品のこと、「答えを教えてもらうことが学問ではない」ということ、自分自身で考え言葉にするということ、それは生活、大きくいうと自分の人生の中でいまも息づいていると感じています。実は高校時代、自死を選んでしまった幼馴染や身近なひとの病気、親族の離婚と再婚など、自分自身が生きていることや、友達・家族との

関わり方について、10 代の頭で真剣に悩んでいました。そんなときに「私達が立っている場所」で出会った、坂口安吾「文学のふるさと」（文庫本に同時収録されていた「日本文化私観」「堕落論」）や吉野源三郎「君たちはどう生きるか」を読み、考えることで少なからず助けられていたと思っています。高校卒業後は、芸術大学文芸学科という人よりもすこし文章や文学触れる場所に進学し、他にも小説、随筆、評論を読み、また自分自身も創作してきましたが、一方的に読み方を教わるのではなく、なぜこう思ったか、作者はこう言いたいのではないか、正解のない問いに対しクラスメイトや先生と話す下地作りがばっちりできていたから、大学の 4 年間が大変実りあるものになりました。現在は営業事務として、幾人かの後輩、部下を指導する立場にいますが、答えのない問いに向かい合い悩む毎日です。「私達が立っている場所」の授業は、わたしが現代社会に属し、考え続けているかぎり、ずっと続いていくのだと思います。

16. 「私達の立っている場所」は、私にとって、最も影響を受けた中等教育の授業です。扱われた教材の質の高さによるものとも思いますが、授業の中で取り上げられた概念を、その後の人生において、考えの指針とすることが一度ならずありました。現代文という科目の枠を超えて、「考え方」や「生き方」を教えて頂いたのだと感謝しております。具体的によく思いを馳せるのは「文学のふるさと」と、「であることとすること」の考え方です。前者は、映画や小説等の作品を楽しむ際に自分の琴線に触れるかどうか以外の評価軸として、よく考慮しますし、後者は職業柄、官・民・学の連携や協働に関わることが多く、その際の各ステークホルダーの属性や、個別施策の企画・評価に係る検討の際に頭をよぎることの多い概念です。また、教材そのものから得られた知識のみならず、グループ発表の準備に際して、「膨大な量の課題に限られた時間内で取り組む」という状況を捉えて小山先生がおっしゃられた「今回皆さんが取る問題解決の手段（課題から逃避するか、どこか無理をしてでも時間を確保して取り組むか、効率的に適度に万事に力を抜いて取り組むか等）を、皆さんは今後の人生においても問題解決の手段として選択することになります」というお話がとても印象に残っております。これは、人間性の本質を教えて頂いた言葉であり、その後の霞ヶ関の激務の日々等に思い返しておりました。最後になりますが、私達 25 周年誠におめでとうございます。

17. 大学生の時期、良く政治学の教授のゼミ室にお邪魔してました。（私の専攻は芸術学の彫刻科。）高校で丸山真男の文章で授業を受けたと伝えると少し驚かれました。教授の話も広がり楽しかったことを覚えています。

“私”というものも未だ理解出来ていなかったのに、“私達”で考えるなんてことは随分背伸びしていたかもなと今思います。でもこれを受けとかないといけないと考えたのは自分の知的好奇心でしょうか、刺激的で私の脳は喜んでました。“私達”の定義を文学作品毎に反芻していました。学校社会の私達、地域社会の私達、日本国家、世界、突き進めば宇宙か。思考が走ってしまい一人で気分が悪くなることもたまにあり、もっと意見を交わすこともしたかった反面、どちらかと言うと暗記一辺倒だった義務教育時代の思考の癖が邪魔し思考停止してしまっていたのも正直なところです。受けていた義務教育が一種の呪縛の様にも感じます。言語運用能力を豊かにする。呪縛を解く。思い通りにいかず大変でした。しかしながら学業生活、職業生活、社会生活と、過ごせば過ごすほど私達の中でしか私は生きないのだなと実感するところです。

18. 学部生であることが研究することへの足を引っ張ることがありました。意見を言った時に、それは院生での話であると批評が止まり、研究している中身の事を見てくれている感じはなかったです。である事の枠組みを越える、または逸脱すると人は見なくなり、関心を持たなくなるのだなと実感した。自ら主体的にすることへの熱を持ち続けたいと思うが、であることの環境も気にしないといけなかったです。

19. なかなか「できてる」とは言えませんが、「現代の価値観だけで過去の話をしないようにする」は、普段から意識している…と思います。
　大学ではサークル活動にかまけて（ほんとうに楽しかった）まじめに勉強しなかったので全然生かせませんでした…笑
飲み会で酔っ払って SNS の話題に言及するときが 1 番この授業的な話をしてる気がします。基本的には「あの時もっと必死こいてやっとけばよかったな?」と思っています！

総合学科 11 期

20. 作品を読み取り自分の頭で考える、他人の意見を聞いて理解を深める、グループで資料をまとめる、周りにわかりやすく伝える、「私達」の授業で求められる力は、社会生活を送る上でも必要とされます。また、題材とされる 1 つ 1 つの作品は、どれも時間をかけてじっくり向き合う価値のある作品です。学生の皆さんは、是非、今宮高校の名物「私達」の授業を選択し、学びを深めてください。

21. 既成の概念が揺らぐとき、パラダイム論のことを思い出しては柔軟に受け入れることができたように思います。
　「君たちはどう生きるか」の一節で、困っている人に気づいたときに行動に移せず後悔したという内容があったように思うのですが(曖昧ですみません)、それ以降、気づいたときがやりどき、と思うようにして生きています。

　小中学生のときは本は漫画か教科書しか読まなくて
　字がたくさん書かれた小説は大嫌いでした。
　しかし「私達が立っている場所」の授業で小説に興味をもつことができました。
　それから今までの間、たくさんの本を読み新しい考え方ができるようになりました。
　また、英語や中国語、スペイン語の長文も楽しく読めるようになりました！
　(長文でも読むことができるようになったことから
　集中力が上がったのかなと思います。)

22. 「私達が立っている場所」を受講して「私達が立っている場所」が余計分からなくなった。でも私達を取り巻く環境や枠組み、目指すべき私は何となく分かった。今宮を卒業してから 15 年以上経つ。高校時代は「私達の立っている場所」が意味する「私達」の中に今宮の同級生が含まれていたが、今の私には「私達が立っている場所」の「私達」の中に同級生はいない。
　特に「君たちはどう生きるか」『である』ことと『する』こと」を読んでから、自分はどのような人間になりたいかを考えるようになった。自分の立ち位置、理想像、他者から見える自分など、行動を起こす

ときに考える視点が増えた。

23.授業名について言及すると、「私達がいる場所」ではなく「私達が立っている場所」である。仮に授業名が「私達がいる場所」「私達の場所」だった場合、自分の意志でなくてもいい。「立っている」は自分の意志で、現在進行形である。更に「ところ」ではなく「場所」である。「私達が立っているところ」だったら、今私たちが立とうとしている動作の最中とも捉えられる。このように今宮にいたときよりも、より深くいろんな観点から「私達が立っている場所」を考えられるようになった。

24.高校の時と比べて、私の立っている場所から見える景色は変わった。今見える景色や場所もだいたい理解できるが、端的に説明できない。確実なのは今、私が立っている場所には、「私達が立っている場所」で学んだことを始めとする今宮生活での破片が散らばっているということだ。

25.ものごとを学ぶ意欲や姿勢に繋がっていると感じます。

「私たちが立っている場所」の授業をふと思い出すことがあります。思い出すのはニヤニヤした顔で問いかける小山先生、そしてなかなか考えがまとまらず応えられない悔しさです。何々を学んだ、これこれを教えてもらったということはあまり覚えておらず、今回小山先生の授業する様子を動画を見て、こんなにしっかりと説明をしていたのかと新鮮な驚きがありました。思えば Q&A も全然すっきりいったことはありませんでした。何か温情的な措置で仕方なくクリアとしてもらったような覚えがあります。

不全感ばかりを思い浮かべますが、一方で高校三年の一年間で現代文の成績は飛躍的に向上しました。センター試験では、選択肢を選ぶだけなら間違えようがないのではというぐらいに。「私達が立っている場所」が難しかったので、現代文のテストは簡単になったというような感触だったと覚えています。

では私にとって「私達が立っている場所」の何が難しかったかというと、答えを与えてもらうことなく、徹底して自分で考えることを求められたからだったと思います。あれほど自分で考えることを求められた経験はそれまでありませんでしたありませんでした。またそれを人に伝わる形で言葉にすることも必要とされていました。それに比べると受験問題の設問は答えが用意されたものであり、ガイドのある登山道のようなもので多少険しくても丁寧に取り組めば何とでもなるという安心感がありました。

登山の比喩を用いて「私達が立っている場所」の授業での体験を表現すると、進むべき頂上は示されても、足場の固さもメルクマークにすべきものもわからず、ひとたび天候が変わると自分がどこに立っているのかもわからなくなり、たちまち遭難してしまうような感覚でした。今見れば小山先生はいろいろなヒントを示してくれていたのかもしれませんが、その当時の私は、自分で考え言葉にして生きていくために必要な体力も装備も知識も不十分だったのだろうと思います。なかなか達成感を得られることはありませんでしたが、それでも「私達が立っている場所」の授業は知的な興奮を伴う、歯応えのある体験だったと感じます。

卒業後してから 10 年以上経過しましたが、「私達が立っている場所」での体験を改めて振り返ってみるとあの授業での体験が“知ろうとすること”、”自分で考えようとすること”という姿勢に繋がっているように思います。

現在、私は児童養護施設で心理士として働いています。児童養護施設は様々な事情により親元で暮らすことができない子どもたちが生活する施設です。この領域での仕事では不条理を感じることが多くあり、

無力さを感じることも多い現場だと思います。そうした現場で仕事を続けていくために必要なことは、理不尽がどのようにして生じているのかを知ろうとすることだと思いますし、またそうした状況の中で自分が何をするべきか考えて決めることだと思います。自分の立っている場所がどのように成り立っているのかを知り、またその場所で自分が何を出来るか、どうするかを考え決めるという姿勢を獲得することができたのは、「私たちが立っている場所」での体験が大きいのではないかと、振り返ってみて感じます。

「私達が立っている場所」の体験が具体的にどう生きたかというと明確に答えることは難しいですが、この授業で学んだことがその後の活動や生活の通奏低音となっていたように思います。直接進路決定に影響を与えたことはありませんが、現在の職種を志したのも高校生の時ですし、深いところで影響を受けながら卒業後の生活を送って来たように感じます。

改めて今回動画で小山先生の授業を見て、高校生が享受する内容としてはとてもリッチなものだと思いました。またそれは小山先生が学生の知性や可能性を侮ることなく取り組まれている仕事の結果なのだと思います。そうした授業を学生の時に体験できたことは幸福なことであったと、改めて振り返り感じています。

26.「私達が立っている場所」の授業を受けて、「文章って人に伝わるように書くものなんだな」と初めて感じたことが 1 番印象に残ってます。授業の発表やグループワークを通して感じました。現代文でグループワークをする経験ができたことが財産だと思っています。

いま私は 3 歳の男の子と 0 歳の女の子の子育てをしています。ただの趣味なのですが、可愛い我が子との日常を忘れたくなくて日々日記を書いています。未来の自分自身に対しても文章を書くときに「わかるように書く、わかりやすく書く」という意識がずっとあるのは小山先生の授業のおかげだと思っています。

総合学科 12 期

27.正直に言って、「私達が立っている場所」の学びが卒業後に生きた点について「具体的」に答えるのは困難です。何故なら、「私達」が生きるのはわかりやすい具体的な場面や瞬間ではなく、日常に溶け込んだ考え方、生き方そのものだと感じるからです。言い換えれば、「私達」の授業の学びは私にとって、今の価値観や考え方の基盤を作る授業であったのだと思います。

在学中は、「私達」について、かなり単純に、活気があって面白く楽しい授業だと思っていました。今になって思えば、当時は授業を受けることで、「対象テクストを深く理解する力」を得ることができる／できたと思っていたように思います。それはある面では確かにそうなのですが、今になって思えば一面的なものの見方でした。卒業して十年以上経った今、私があの授業で身に着けた力は「学ぶ動機」そのものであったのかもしれないと思っています。

在学中、先生が何度もおっしゃられていた言葉があります。「本当にそうか？」です。当時私はその言葉を、対象テクストの内容をより正しく理解するための不断の問い直しのための言葉だと理解していました。つまり、当時の私は、テクストを読むにあたって正しい正解がある、正しい理解の方法があると信じていたのです。「本当にそうか？」は、私たち自身が対象テクストを読む際に常に頭に置いておくことで間違いを防ぐための言葉であると考えていました。

しかし、おそらくそうではない。

重要なのは、問いそのものを検討する力でした。もちろん在学当時から、物事に対して批判的なまなざしを確保することは重要だということは学んできました。扱う評論やエッセイ、小説はどれも、既存の価値観や社会構造に対して「本当にそうか？」を問いかけるようなものでしたから。しかし当時はあくまで批判的な視点は評論などのテクストから与えられるものだった。対象テクストの影響圏内、あるいは授業で与えられる情報の範囲内で物事を考える癖がついていたように思います。

そのことに気が付いたのは、大学に入ってしばらくしてから、丸山真男の「「である」ことと「する」こと」を読み直した時です。ほとんど完璧に理解しているだろうと思ったあの文章に対して、私は不意に疑問を抱きました。「本当にそうか？」と。丸山は民主主義の重要性を近代化と紐づけて語るけれども、近代化が帝国主義と植民地主義、ひいては資本主義の名のもとに非西洋を侵略したことを考えると、民主主義を近代と単純に結びつけて考えるのは危ういのではないか。その論理こそが「近代化≒啓蒙」の名の下に日本を侵略戦争に向かわせたものだったのではないか。

丸山が間違っているとは思いません。でも同時に、丸山だけを読んで考えることの危うさにも気づきました。そこでようやく、私は「本当にそうか？」の真価、この言葉の射程範囲の広さを理解したのです。私たちは、自分たちの価値観や認識枠組みがどのように構築されているのかを理解するために、今自分の価値観を構成しているものを問い直し続けなければいけない。「本当にそうか？」と、自分に向けて言い続けなければいけない。

「「である」ことと「する」こと」に対する疑問自体は、私が大学の授業で別の価値観や知識を学んだからこそ出てきたものではありますが、その種子は、まぎれもなく「私達が立っている場所」の授業で手に入れたものです。授業で私たちは「学ぶ」ことを要請され続けました。「教えてもらう」のではなく「学ぶ」ことです。「学ぶ」とは、先生から、あるいは対象テクストから、「教えてもらう」ことではなかった。何かを理解するために調べること、必要な情報を探し当てること、相対する価値観や概念と比較検討すること、その価値観や概念が出てきた背景を踏まえた上で向き合うこと、そして他者と語り合うこと。そうしなければ、クラスメイトに向けて発表できるまでの理解に辿り着くのは困難でした。そしてその作業こそが「学ぶ」ために必須の行程だったのだと思います。

当時はこうした「学ぶ」作業を、答えに辿り着くための作業だと考えていましたが、今なら「考える」ための作業であったことがわかります。何かを考えるというのは途方もない作業です。意識しなければ無意識に、思考は既存の価値観によって方向づけられてしまうからです。そこには、偏見や差別も紛れ込みます。だから、学ぶ必要があったんですね。自分たちの価値観や考えを、そうとは知られず形作っているものが何なのか、その背景となっている歴史や、価値観や、思想や、文化について知る必要があった。私たちの考え方は、たとえ評論家や作家であったとしても、時代や文化という立ち位置を抜きにしては醸成されません。私たちは、私達の立っている場所を知らなければ、何も考えることなんてできなかった。

この文章を書いていて気付きました。「私達が立っている場所」という授業名は、「現代文」が単に文章を理解する力の養成のための教科ではなく、私達が立っている場所について理解し、不断に問い直すための力＝思考力を提供する学問であるからこその命名だったのかもしれないな、と。間違えていたらすみません。けれど、少なくとも私にとって、「私達」はそういう授業でした。

そして、このように文章にしてみて、「私達が立っている場所」が遅効性の種子のようなものであるこ

とが、改めてよくわかりました。当時はわからなかったことが、じわじわと根を張るように私の中で広がっていき、気付けば日常生活においてのものの見方や認識枠組みを変えてしまっている。やはり「私達」での学びは、日常に溶け込んで常に生きているのだと思います。

総合学科 13 期

28. 小山先生、お久しぶりです。動画拝見しお元気そうでお変わりなくで何よりです。
　素敵な取り組みですね。授業するだけじゃなくご自身の取り組みを振り返られることはやれそうでなかなか難しいことだと思うので、すごい！と思うとともに自分も社会人としてお手本にしなければと思いました。
「私達が立っている場所」を選択したこと、小山先生の突っこみがするどくて面白かったことは今でも脳みそに残っていて、シーンとしても鮮明に思い出されることができるのですが、細かな授業の内容や学びがどう生きたかまでは色々振り返ってみましたが正直あまり思い出せませんでした。ごめんなさい…楽しかったこと、選択して良かったことは憶えています！！！

総合学科 14 期

29. 今後の人生についての悩み事などがあった時に、「救いのないことが救い」という言葉を思い出して、自然と深く考えるようになっている。

30. 放課後に班員で集まって、課題を何度も何度も読み込み、話し合い、先生にダメ出しを受けながら資料を作成し、苦労の末に発表を行なった後、不十分だった点の追加や訂正を行う補充発表する…
　これだけの時間を費やしたので当たり前と言われれば当たり前なのかもしれませんが、自分が所属する班が発表を担当した部分については、他の班が発表を担当した部分よりも自分の中に強く残っています。
「『である』ことと『する』こと」で担当した部分に出てきた「権利の上に眠る者」と「制度の自己目的化」は特に印象的で、実生活と結び付けた例をいくつか挙げて考えたこともあり、仕事をする上でも毎日の生活の中でも様々な事柄と結びつきやすく、自分はどう行動すべきか？、何のためのルールか？（ルールを守ること自体が目的になっていないか？）と思い出すことが何度もありました（教室や図書室の風景、小山先生のお顔も込みで思い出します）。

31. 訴求力のある文章を作成するための能力が養われた
　2024 年 7 月、私は、卒業以来初めて母校のホームページを訪れました。そしてトップページをつぶさに見ておりますと、真っ先に飛び込んできたのは「私達まつり」なる一文。「私達」。その懐かしいことばが画面越しに私の眼に像を映し、それを知覚した瞬間、長らく記憶の片隅にて思い出されることもなく埃をかぶっていた様々な思い出が蘇ってまいりました。しかしながらここはエッセイのように思い出話をする場ではないと存じますので、卒業後 12 年が経過した時点での「私達」という授業が私個人にもたらしたものについて以下に記述したいと思います。

32. 「私達」は、単なる学校の教科ではなく、「意味を伴った『ことば』を理解し、話すこと。書き記すこ

と」を主体的かつ総合的に学ぶ授業でありました。この「ことば」というものは、人間が生きていくうえで極めて重要なもの、一丁目一番地で取り組まなければならないものであると感じています。なぜなら「ことば」が種としての生存性の根幹を成しているからです。人間は「ことば」を他個体との集団、「社会」を作るために用い、また口伝・記述する能力により「ことば」を体系的な「知識・知見」に装丁することを行います。そして作った社会において知識を集合・蓄積させることにより、迫りくる危険を回避し、個体と所属集団、ひいては種の生存を図るという生存戦略をとっています。それ故に「ことば」は人が人として生存するためにたいへん重要なものであり、学ぶ必要があると私は考えています。私自身、話す「ことば」の限界を日常生活の中で幾度となく感じており、学びをやめてはならないと毎日のように思います。「私達」は授業を通じて私に「ことば」の重要性と素晴らしさを教えてくれました。改めてその気づきを授業を通して数多く提供してくださった小山先生、そして意味を沢山乗せた「ことば」による議論を数多く交わした中で、別視点の気づきをいくつもくれた同期の皆に心からの感謝と敬意を表したいと思います。余談ですが、先生は 12 年前、「最後は私達が帰っていく場所をやる」と仰っておられたのを覚えておりますが、それはもしかすると今回の行事のことであったのかとふと感じました。末筆になりますが、関係者の皆様のご多幸と、ご活躍、そして「私達の立っている場所」の末永い発展を心よりお祈りいたしまして結びといたします。

総合学科 15 期

33. 文章を読み込み、自分なりに解釈して周りの人に伝える力をつけることができたことで、大学の授業や卒業論文の作成、仕事（幼稚園教諭）で使う資料の作成や研究に生きたと感じている。

34. 正解のない問題に取り組む体験ができた事が大きかったと思います。社会に出てからは（学生時代でも一歩社会の一員として存在する時は）、基本的に正解のない問題にしかないかなと思います。簡単に乗り越えられる問題から、中々ハードルの高い問題もある中、高校生にして現代社会の問題という難しい問題について考える経験は今の自分に活きていると思います。私の場合はスキルとして特に、文章や人の話に対して深く理解しようと向き合う事を学びました。

　分かっているつもり、さらっと表面だけを攫うことをしていた自分に気付きました。人それぞれ学んだ事は異なると思いますが、共通しているのはこの授業に取り組んだ事、それが生徒主体で力を合わせて、深く議論し合った経験がその後の自分への自信になる事かなと感じています。これからもこの授業が続いている事を願います。小山先生ありがとうございます。

総合学科 16 期

35. 学校に通い学びを深めること。働きお金を稼ぐこと。こういったことはどんな事も『目的』ではなく、豊かに生きるための『手段』です。生きていくとこの目的と手段が入れ替わっているような人とたくさん出会いますが、その中で私たちがどのようにあるべきか、私たちは目的をしっかり見据えて生きているか、手段のために生きていないか、等、科目の名前通り『私たちが立っている場所』について考える力を身につけられる素晴らしい授業でした。先輩としてお勧めします。今後の人生のいろんな『あるある』な状況を言葉にする練習をすることができますよ！

36. 現在の社会問題を自分事として深く考えるようになった。大学受験に関しては、正直授業でやっていることの方がよっぽど高度だったのか、2 次試験含めて特に苦労せずに取り組めたと思う。

「私達が立っている場所」は、自らの進路選択、職業選択にかなり大きな影響があったと思います。この授業で深く考える、思考することが好きになりましたし、実際は元々好きだったのでしょうが、その好きを先生に引き出してもらい、また考えたことの外への出し方、使い方を教わったように思います。

高校卒業後は、大学進学をすることに決め、言語学を専攻し、もっと深くじっくり学びたいという気持ちから博士前期課程へ進学、現在は大阪の私立中高一貫校で英語の教員をしています。

生徒にも先生は研究者みたい～と言われるほど、ことば、特に私の場合は英語について、掘り下げて考えることが好きです。

小山先生は、生徒のどんな興味も、グループで教材を深く読み進めていく経過や過程も、一緒に参加する姿勢で楽しんでくれていた印象があります。また時にはそれぞれの気付きを待って、何か発見があったときには大袈裟に喜んで、褒めてくれたので、自分はものすごく面白い考え方をしてるのでは？という錯覚に陥って、教材を追究していくことや読んだ内容を自分の生活と結びつけていくことを大いに楽しみました。それが自分のその後の学びへの積極性に繋がっているように思います。

今は、自分の生徒たちにも真の学びの楽しさを感じて欲しい、と無意識にも小山先生のやり方を真似ているのかもしれません。質問をしてきたときや自分たちで学ぶ姿勢が少しでも見えれば、一緒に楽しみ、褒めまくり、「めっちゃおもろいやん！」、「なんでやろな、私も考えてみる、調べてみて～」などの声掛けをしています。彼らも実際、そのような声かけを起点に興味を持って学びを深めているように思います。

小山チルドレンとしては、最前線で小山グランドチルドレンを量産している自信ありです。

総合学科 17 期

37. 1 つの話を徹底的に噛み砕き掘り下げる作業は、仕事?プライベートの幅広い範囲での問題解決に活かせている。

総合学科 18 期

38. 文学を楽しめるようになった。

感受性がついた。

「高校生の君たちへ。」

「私達が立っている場所」を受講したのは約 10 年前になります。うろ覚えですが、一番印象に残っているのは、「権利の上に眠るもの」「制度の自己目的化」というワードです。前者は、権利を持つものは、その権利を行使し続けないとその効力を失ってしまうというものです。現在の日本では若者の政治離れが進み、国の舵取りが一部の人間に委ねられてるような気がします。この文書を読んでいる君。私達が立っている場所。その上で眠るのではなく、目を覚ますことを願っています。後者は、筋トレで例えるとわかりやすいですね。マッチョになるために筋トレをやり始めたはずが、マッチョになるよりも、筋トレをすること自体が目的になってしまうということ。

これから何か目標を持ち、頑張るであろう君達に伝えたい。現実は残酷で「叶わない夢や目標」は存在する。壁にぶち当たる。悩む。人はその時に思う。「頑張ってるんだけどなぁ。」「頑張ってもダメかぁ。」

どうか、「頑張る」ことを目的にしないこと。一度、逃げたっていい。なんなら諦めてもいい。そこから見える景色もある。

作り上げた制度そのものを疑う心を持ってみて欲しい。

「諦めず頑張り続ける」

この素晴らしき言葉に潜む残酷さを感じて欲しい。

最後に、これから先、自分が何者でどこに向かうのか不安になる日が来るかもしれない。その時に「どう生きるのか」をおそらく考えると思います。私は死ぬために生きるのではなく、生きるために生きている。ただ生きている。それだけで十分だと思える日が来るまで。そう思えるようになったのは、この授業のおかげです。小山先生。サンキューです。

39.権利や自由について考えるときがあります。その根底には「私達」の授業が少なからず影響していると思います。

EX：選挙権について、申請主義の様々な制度について、自分の自由と他者の自由は衝突してしまう場合があること、結社の自由　など

大学最終学年の年、ちょうどコロナ禍真っ只中でした。学生も先生も未曽有の事態でしたが、十分な学習支援が得られないことを疑問に思い、署名活動をおこない県議会に請願を出すという経験をしました。改めて考えると、この行動をとった根底には、「私達」の学びがあったのではないかと感じています。

2020 年ごろのことです。公立大学に通っていたのですが、コロナによって大学が入校禁止になり、授業が自習に切り替わりました。他大学はオンライン学習に移行したり、環境整備のための支援がありましたが、自身の大学の自習という状況に納得がいかず、学びの保障を求め県議会に声を届けるために署名活動をしました。しかし、驚いたことに同じ学生から風当たりの強い言葉をもらいました。「先生も大変ななか頑張っているのに、そんなことは言うべきではない」といった趣旨の意見です。もちろん、コロナは誰もが初めてのことであったため、学生だけでなく教職員も対応に戸惑ったことと想像します。しかし、皆大変だからと我慢するのでなくて、一緒に助けてと交渉しようと、どうしてそのような発想にならないのかとても残念でした。学生へ状況聞き取りのアンケートをとり、署名、請願と併せて県議会へ届けました。結果的に同級生や後輩、議員さんに協力をいただき、学内のオンライン学習環境整備のための予算がついたりと一定の成果は得ることが出来ました。しかし、前述したように厳しい言葉ももらい、学習的無力感という言葉や感覚を覚えたのもこのタイミングでした。日本財団が 2019 年に行なった『18 歳意識調査』によれば、「自分で国や社会を変えられると思う」と回答した 18 歳の割合は 18.3%だったそうです。自身の経験から、不本意ながら腑に落ちてしまいました。声をあげれば後ろ指をさされる、おかしいと思っても声をあげづらい、そういったなかではまず自身の意見を言うことすら憚られますし、変えるために自ら行動をおこすのはもっとハードルが高いです。

自分語りが過ぎましたが、「私達」の評論に繋げて考えると、「権利の上に眠る者」では、奪われる怖さよりも、奪われることに気づかず、問題視せずスルーしてしまう怖さが印象的でした。当たり前に享受できるはずの権利や、違和感について声を上げなければ、ないものとされてしまう。目の前の状況を疑わず、「そういうもん」としてしまう怖さ、「みんなしんどいんだから」と口をつぐんでしまうのは、苦しく、いたたまれません。以下は、評論の心に残っている箇所です。「私たちの社会が自由だ自由だといって、自由であることを祝福している間に、いつの間にかその自由の実質はカラッポになっていないとも限ら

ない。自由は置物のようにそこにあるのではなく、現実の行使によってだけ守られる、いいかえれば日々自由になろうとすることによって、はじめて自由でありえるということなのです。その意味では近代社会の自由とか権利というものは、どうやら生活の惰性を好む者、毎日の生活さえ何とか安全に過ごせたら。物事の判断などはひとにあずけてもいいと思っている人、あるいはアームチェアから立ち上がるよりもそれに深々とよりかかっていたい気性の持ち主などにとってははなはだ厄介なしろ物だといえましょう。」（「である」ことと「する」こと　権利の上に眠る者）

振り返って、自身の運動において、伝え方や進め方に課題があったことは自覚しており、またその中でしんどい思いをしましたが、権利について考えたり（EX:請願権）仲間と社会を変えていく一歩を踏み出すことが出来たのは、かけがえない事だったと思います。疑いを持ち、変えていく、状況を変えるために自分が変わるという姿勢はこれからも大切にしていきたいと思っています。

40.振り返ると、こうして実生活とつなげて思い返せる授業を受講できて、とても幸せだなと思います。当時、好きな教科はありましたし、受験科目に留まらない総合的な学びも楽しんでいました。しかし、いつもテストの点数に一喜一憂していたりと、主として受験のための勉強をしていたなと、反省しています。受験後、自分のなかに蓄積されているものが、薄っぺらで、何もないような感覚がありました。そのときはとても悲しかったし、自分ってダメだなと思いましたが、「私達」の学びはそうではなかったと、これを書いていて気づくことが出来ました。今でも黄色いファイルと、教材やメモ、テストも保管していて、たまに読み返したりします。当時のメモを見返しながら、その時の自分と会話したり、今だからこその視点に出会えたり、まだまだ私の「私達」は続いている気がしました。今回、アンケートを送っていただき、それが自分にとって面白い発見でした。素敵なきっかけを下さり、ありがとうございます。

41.「私達が立っている場所」の授業は、最初は難しいと思うことも多かったですが、グループのみんなと考えたり、小山先生と話をしたりする中で、深く考えることができました。今まで話したことなかった友達と集まって勉強する機会も多くとても仲良くなりました。今でも、そのグループで集まったり、連絡を取り合ったりします。素敵な出会いでした。

42.当時は取り扱っていたトピックの面白さを理解していなかったように思いますが、社会に出てみて明治の文豪が書いた文章がいかに強い教養になるかを学びました。大学生の時や社会に出て１人になる時、いつの時代も人は同じような問いを持つようです。それに対して現代のように娯楽が少ない時代に言葉で真剣に向き合ってくれた方々の文章は、今をリードする学者や文化人（落合陽一さんや岡田斗司夫さん等々）の話を聞いたとき、彼らには広く読まれているんだなと実感しています。宮崎駿さんによって「君たちはどう生きるか」が映画化されたことも一つ良い例かなと思います。今振り返るとこの授業のおかげで先述のような相手の言葉がわかるための基礎教養と、「自分で仮説を考え、その通りに生きてみる」という哲学の基礎ができたと思います。そういった点ではテストで点数を取るための授業とは異なる本当の教育を受けられたかと思いますし、当時の選択に満足しています。

エリートの話を聞く時に、会話に置いていかれてないなと実感します。作者や本のタイトルを基礎教養として知っていることで、関連する情報がすぐ思い出せます。
人との会話において分からないトピックが出てくると、話に食らいついていく気がなくなりがちだと思

います。しかしこの授業のおかげで普段からそういった材料としての教養を深めていく土台ができたと思いますし、難しいことに立ち向かっていく姿勢もできたと感じています。

総合学科 19 期

43. 過去の事故や事例を学ぶ時、毎日ニュースを見る時、結果だけで見るのではなくそこに至るまでの過程や背景を知ろうと一歩離れて見ることを心がけるようになった。

44. テストが自由記述形式だったので、大学のテストや現在仕事で報告書を作る際に自分の意見を文章でまとめるための語彙力や表現の仕方が身についた。

45. 授業において、教材を深く読む力がついたと思っております。それにより大学で講義を受けていた時や、本を読んでいる時に、ただ言葉や文字を取り込むだけでなく、知識を広げて解釈することができるようになったと実感しています。

「権利の上に眠る者」の分野が凄く印象に残っており、特に現在の政治において、我々国民は眠ってしまっていると感じております。しかし自分自身が『する』をし続けていられてるかと問われると、答えられないので情けない思いもあります。

46. 大学では文学を専攻していたため、文豪の文学作品はもちろん、エッセイやジャーナリストが執筆した文章を読むことがありました。それらについてレポートを書く際、参考・引用する書籍の文章は本当にわかりにくいものが多いです。なんなら、授業で使用する教科書も遠回りな表現が多く、もっともっとストレートに書いてくれればいいのに…！と思うことがしばしば。「私達が立っている場所」を受講していたことで、読解力を必要とする難関な文章に慣れれたことはもちろん、読解力自体も身についており、学習面で特に生きていたなぁと今振り返って思います。

「生きた」ことではありませんが、丁度私が卒業してから教材で使用した「君たちはどう生きるか」や「ハーバード白熱授業」が話題にあがったり、テレビで特集されたりし、学生時代に既に履修していた私はこっそり自慢気に思っていました(笑)

また、当時本屋さんでアルバイトしており、「君たちはどう生きるか」を色んなお客さんが買い求めて訪れました。求める書籍が欠品しており落胆して帰る背中を見送りながら、部屋の書棚に置いてあることが少し誇らしかったのを覚えています(笑)

総合学科 20 期

47. 知識を得る授業というよりは、考える力がつく授業だったので、大学でのレポートや論文に生きたと感じています。特に問題･課題の設定や結論への導き方の部分で生きたと思います。

ただの現代文ではない、一つ次のステージの現代文を学びたくて受講しました。今でも選択して良かったと思います。今宮高校で 1 番印象に残る授業でした。

総合学科 21 期

48. 在学当時に宮崎駿の「君たちはどう生きるか」が映画化されると知り、小山先生の「私達が立ってい

る場所」で学んだ内容を友人と話しあったことがある。映画の内容はタイトルを借りたもので、原作とは大きく違っていたが、考察するにあたって授業で学んだ 1 つの場面を読み込むことの大切さが生きたと感じる。

総合学科 22 期

49. 大学の日本語の授業で、「私達が立っている場所」を思い出しながら課題に取り組んだところ、高評価をつけてもらいました。

50. 「君たちはどう生きるか」という物語に出会えた場所です。卒業後も何度も読み返し、就職活動の中で 1 番好きな本として挙げました。当時履修していた中で 1 番大変な授業でしたが、文章を読み込む力を身に付けられました。大変感謝しています。

総合学科 23 期

51. 私は目指す大学の受験でグループディスカッションがありましたが上がり気味な性格で、人と話し、発表することに慣れるためにこの授業を受講しました。人前で話すことが苦手な性格ですが、しっかり文章を読み込み、時には先生にアドバイスもいただきながら考える中で、自分の解釈に自信を持つことができました。そして、自信を持った解釈を人に伝えるということに関しては、それほど緊張しないということにも気づくことができました。

大学生として生活する今でも、講義内で解釈を人に伝えたり、プレゼンテーションをしたりする機会があります。私は当時得た気づきから、時々先生方にもアドバイスをいただきながら、納得いくまで考えてから発表に挑むようにしています。そのおかげで今では発表することはそんなに苦ではなくなりました。

また、私は今国語科の教員を目指して日々学んでいます。私のしたい授業像の礎となっているのがこの「私達」の授業です。人と人とが話し合い、一所懸命考える中で生まれる気づきや学びは非常に大切なものであると感じています。読む文章は当時難しいと感じていましたが、難しいものにみんなと一緒に向き合い、考えるという経験は今でも私の中で生きています。そのような授業をできる教員になりたいと、勉学に励んでいます。

52. 「ハーバード白熱教室」で主要な倫理観、道徳の価値観を学べたことは、大学で社会学を学ぶなかでとても役に立ちました。自分の価値に即した考え方だけでなく、異なる倫理観を知っていたことで、自分の信じるものだけが絶対の正解ではない、と知れていたことは自分にとって幸運なことでした。
自分は、大学では福祉を専攻しているため、全ての人に最低限の生活を保証することが倫理的に望ましいと考えています。しかし、社会全体の利益というものをどう捉えるかによって、どう資源を分配するのが最善かは変わってきます。そのため、社会のありかたについて考える時にはいつも、自分の持つ権利論、社会保障論だけに固執するのではなく、功利主義を含む幅広い社会利益の考え方を持つことが必要だと意識しています。

総合学科 24 期

53. 本を読むのが少し楽しくなりました。

54. 物事の本質を言葉で捉える力が身についたと強く感じる。大学の授業はもちろん、ニュースの記事などを読む時にも、文章を自分の言葉で解釈することができるようになった。

55. 今宮高校卒業から 10 年以上経ち、当時の記憶が曖昧になっていますが、多くのことを忘れても授業で学んだことの核は自分の物差しの一つになっている実感があります。
　例えば「であることとすること」で権利の上に眠る者の一文がありましたが、選挙に行くとき、仕事、プライベートなど、要所要所で思い出して自問自答して気持ちが引き締められる思いになります。ただ文書をなぞるだけではなく、クラスメイトと真剣にあーでもないこーでもないと話し合ったからこそ自分の血肉になったのかな、と思います。

56. 私の中で私達での学びは、活きたどころか、ここ数年根付きすぎてむしろ少しムカつくような感情がありました。色々な物事をあれもこれも、私達で扱った教材で学んだ論理に置き換えてしまう。これに対して懐疑的な態度をとっていました。しかし、最近になって気づきました。焦らなくとも、自分の考え方は変わっていきます。新たな他人・文学に出会い、新たな思想に触れ、少し軌道が変わる。その繰り返しで人は成長するのではないかと思います。そして、新たな出会いとは、会話にしろ、文字にしろ、ことばと触れ合った瞬間に起きるものだと思います。だから、その時に思うのは、私にことばを話し、聞き、交わす能力が培われていて良かったということ。思想などは常に形を変えて蓄積されて、方向性が変わることも多々あるけれど、私達で学んだようなことばの使い方や広げ方はずっと残っているし、残っていく感じがします。根付いていたのは、絶対的な言語能力だと気づいてからは、特有のムカつきは消え、むしろ私の生きる姿を支えてくれている様な気がしています。
　特に『文学のふるさと』については、個人的にヲタク的な活用法を見出すことが出来ました。私はアニメや漫画、ゲームが好きないわゆるヲタクなのですが、「ふるさと」や「大人の仕事」を学ぶ前と後とでは、その受け取り方が全く変わったように感じています。具体的には、登場キャラクターの抱える辛い過去、その世界観・時代観が生み出す事実といったどうしようもないことを「ふるさと」と。そのどうしようもないことに対して登場人物がどう足掻くのか、立ち向かうのか、何を得るのかということを「大人の仕事」として、その作品を、文学的な構造を明らかにした上で鑑賞することができるようになりました。構造を意識できるようになれば、ひとつひとつのセリフに深みが生じたり、他作品との比較が容易になったりと、私は″受け取る″ヲタクから″語れる″ヲタクへと成長することが出来ました。それをきっかけとし、日常生活で感じる些細な事実に対しても、構造を意識することによって、学びを得られることを知りました。ヲタクの皆さんは是非読んで学んで欲しいです。

57. あるトピックについて、グループで一心に読み解き、自分では思い至らない意見を知り、議論して理解を共有し、伝えたいことを伝えられるよう資料を纏めて発表する。私達の授業で学んだノウハウは、今でも大学の演習や発表において通底していると思います。グループでテーマについて深く考えて真剣に取り組む姿勢は、大学だけでなく、社会の人間関係においても意識できることだとわかってきました。今

回の機会に顧みて、私達の授業が今の自分への自己拡張にこうも広く影響しているのかと我ながら驚きました。当時先生が語っておられた理論と実践の往還の大切さについて印象に残っていたことも一因なのではないかと考えています。今の自分とは離れた専門性ですが、理論や思考に没頭して得た知見を説明可能に実践へと活かすというような平たいニュアンスで、勝手ながらよく意識することがあります。今の自分の学びのサイクルにも根強い私たちの授業は、かつての時期の得難い経験だったと返す返すも実感させられました。
また、私達の授業当時、歴代でも類を見ない程課題の期限が切迫しているぞと優しくお咎めを受けてしまったこともありました。限られた時間で何を考えどうこなせばいいのか、グループで必死に課題を終わらせた記憶は鮮明です。人間は締切りに追われる極限状況で力を発揮することを身を持って学び、そんな窮状に陥らないよう努める大切さを肝に銘じました。受験生でもあった当時はこんなにも詰め詰めな状況が有り得ていいのかときりきり舞いでしたが、大学に入ってからは同等以上に過密な予定に追われることもままあり、毎度デッドラインの太さに怯みながらもなんとかタスクをこなしています。そんな時にこそ、いかに能率的にどれほどのパフォーマンスを発揮できるかという意識があります。切迫する期限という流動的な状況に追い詰められながらも、その中で自分が取り組める範疇をメタ的に捉えること、何とかやるべきタスクを終わらせようと励むことは、紛れもなく私達の学びを通して身についたことの一つです。結局タスクはギリギリになります。極限状態と折り合って期限を守りましょう(自戒)

<u>総合学科 25 期</u>

58. グループで足並み揃えるのが難しかったです。できれば 3 年生限定ではなく、2 年生のときに選択できる機会が欲しかったです。
　話を簡潔にまとめ、他の人に上手く伝達するときに役に立った。

59. グループでの活動が多かったので、他の人の意見を聞く力が身についた。
　大学で初対面の人とグループワークをするときに、自ら率先して積極的に発言することができた。

60. 班のメンバーで考えを共有し合ったので、コミュニケーション力や表現力をつけることができ、また難しい文章を根気強く読み解き理解するという時間も非常に多くあったので、忍耐力や語彙力もつけるができたと感じています。
　筆者が伝えたいことは何なのかを読み解き理解するという力は、社会に出て、人とコミュニケーションを取っているとき、相手が何を自分に伝えようとしているのかを考えることにも繋がってくると私は考えているので、
　『私達が立っている場所』の授業で粘り強く文章を読んだという経験は、社会に出たときに活きてくると思いました。
　また、班の子たちと一緒に考えを共有するという力は、大学や社会に行って必ず必要になってくる力だし、自分が考えていることを人に伝えるという力も絶対に養わなければならないので、この授業では、これからの人生に必要な力をたくさん養うことが出来たと思います。
また、『私達が立っている場所』で読んだ文章は全て、言葉が非常に難しいので、語彙力もつけることが可能だと感じました。

61. 私は教育学部の国語の選考を受験しました。2 次試験の面接ではリーダーシップをはって発言することができたし、みんなの発見を 1 つにまとめたりして、私達の活動を生かすことができました。小論文では、初見の文章を読んで自分の意見をうまくまとめることができ、8 割点を取ることができました。

学生として習っている間は、毎度文章もむずかしいし、テストは記述ばかりでなかなか思うようにかけず、いやだなと思うこともあったけど、やっぱり、私は国語が好きだなと思うきっかけにもなりました。文を読んで、筆者が伝えようとしていることを読み取って、自分の言葉で解釈してさらにそれを人に伝える。これは簡単なように見えてとってもむずかしいということに気づくことができたし、どうすれば伝えられるだろうと国語という教科に向き合うことができました。この授業がなかったら、面接練習でも小山先生の助言がなかったら、私は大阪教育大学に合格していなかったと思います。

テスト（受験）当日も、私達の授業を受けに行くんだという気持ちで行くと、本来のテストも案外できるやん･･･と自信をもって受けることができたし、気持ちに余裕を持つこともでき、リラックスして受験できたため、自分の力を存分に発揮することができました。

本当に感謝しかないです。

62.「である」ことと、「する」ことのような授業で取り上げた問題が日常に溢れていることに気づき、社会に対する興味を持つきっかけになった。

63.「君たちはどう生きるか」というジブリの映画をみたときに、ただ映画を楽しむだけじゃなくてなにがいいたいのか、伝えたいのかと言うことを考えながらみました。いつもの倍以上映画をみる時間を楽しめました！

64.「私達が立っている場所」では文章を読む力がついただけでなく、普段の生活の中で応用できるような思考能力が鍛えられました。私は現在、大学で社会学を学んでいます。レポートを書く前に内容に則する文献を読む段階があるのですが、一度読んだだけでは理解できないような内容であっても「私たちが立っている場所」で学んだ、理解するまでのプロセスや知識のおかげで理解が深まり、良いレポートを書けるようになりました。

考え方の幅が広がると人生が豊かになると気づける良い授業です。

65. まさか大学でも「私たち」をすると思いませんでしたが、復習としてまた学びを深めようと思います。

総合学科 26 期

66. 物事に対する見方が少し変わった気がする。

先生がおっしゃっていた「本物」を未熟ながら少し理解できた。

また、日頃から本や論文を読む時でも、今までよりも理解が深まった。

今まで現代文とは、先生の話を聞いてノートを取り、テスト勉強は、そのノートを覚えるだけの作業的なものだった。そのため、あまり自分の知見に繋がるものはなかった。しかし、私達の授業では、暗記やノートを覚えることはせず、一文一文を読み解き、自分で考えて伝える力が身についた。私達の授業をとって本当に良かった。

67. 本を読んでいる時、どこがどう大切なのか、筆者はどう考えているのかなど頭の中で整理して読めるようになって、本が前より読みやすくなったと思います

68. ○今まで“当たり前”と思っていたことが育った地域や時代、環境によって“当たり前”ではないという考え方に変わった
○現代文の授業はこれまで受け身で先生が教えたことを覚えるという考えだったけど私たちが立っている場所の授業では自分で理解を深めてから人に教えるやり方だったので今まで以上に文章ひとつひとつを深く考えて、自分で解釈する力がついた

69.「私たち」の授業で、レベルの高い文章を扱うことによって、普段の現代文や、模試、受験の文章は、時間が余るくらいのスピードがついた。その時に、自分でレベル U.P したなと、感じた。そして、記述が 1 番、点数が伸びた。受験勉強もでき、かつ楽しく能力を上げたい人には、絶対おすすめの「私たち」の授業です。是非、受講して下さい！！

70. 私には、私達の授業の学びが生きたと感じた場面が 2 つありました。
　まずは大学の課題をする時です。私は現在法学部で法律について学んでいます。そんな中いくつかの授業の課題で自分で文章を書くものが出されました。初めは大学の課題ということもあり難しいのかな？とか上手くできるかな？という不安でいっぱいでした。しかし、課題に取り組む中で「これって私達の授業でやってたことと同じなんじゃないか？」と思うようになりました。授業の内容を理解し、条文を解釈し、自分でまとめる。教材の内容を理解し、自分で解釈し、発表資料にまとめる。考えれば考えるほど私達の授業でやったことと変わらないことを実感しました。この実感は不安を払拭し、自信に繋がりました。高校の授業でしていたことが大学でできないなんてことはないだろうと思い、課題に取り組む手が不安に思っていた時よりもはやく動きました。そうして提出した課題の出来を褒められることも何度かあり、更なる自信に繋がりました。
　次はアルバイトの面接の時です。どんな面接でもそうだとは思いますが、自分をアピールするような場面に遭遇します。その時にどんな風に自分を表現するか、言葉遣いも気をつけながら考えたことを相手に伝えなければなりません。この考える時に生きたのが私達の授業で培った自分で考え、まとめる力でした。頭の中を整理し、投げかけられた質問に適切に答えられるように考えを導く過程にその力は生きたと感じました。現在業務の中でも感じますが目上の人と会話する際はやはり友達と喋る時とは違い気にすることも考えることも多く、臨機応変な態度や会話が求められると思います。臨機応変に対応する時には今まで培ってきた力や知識が必要になるため、現在の業務でも私達の授業で身につけた力がずっと生きています。
　私は文章を書く力というものは生きていく中で多くの場面で役立つと思います。上記の 2 つの出来事もそうですし、きっとこれからも経験を積むごとにその経験をより豊かにするものであると思います。文章を書くには内容を把握することはもちろん、必要な情報･不必要な情報を取捨選択し、順序だてて綺麗にまとめる、そういった一つ一つの過程を要します。これらの過程がそれぞれ生活に役立ったり、はたまたいくつかのものが組み合わさって役立ったりします。こうして生活で生きる文章を書く力が私達の授業で学べたことは私の人生においてとても良い経験であったと感じます。高校生という色んな物事に

触れ、吸収し、自分を形づくっていく大切な時期にこうした力を身につけられたことは素晴らしいことであるのだと実感しました。これからも私達で身につけた力を生かしていこうと思います。

5　「今宮高校の学び、今宮高校の思い出」を持って、私達は今こんなふうに生きています！！（「私達」の生活史：「今宮高校の学び」編）

総合学科 3 期

1.「輝け個性」

個を大事に学ばせてもらったことが今にも繋がっています。自分で考えて授業を選択したり、ディスカッションして発表したり、違う考えを聞いたり、それが自然と自分の個性も他人の個性も尊重する姿勢の土台になっていました。

今宮で出会った友人は、いい意味で変な人が多く、面白く刺激になり今でも交流があります。同じクラスや部活になったことがない人も多いというのも特徴です。自分の人生の彩りになり、出会って 20 年以上経ってから仕事のような趣味のような活動を一緒にやっていたりもします。

2.私は総合学科 3 期で、小山先生は 2 年生の時にお近くの超難関校から赴任されてこられました。古典を担当頂き、万葉集にまつわるグループワークを夏の暑い時期にやったことを覚えています。この「私たち」の授業は 3 年生の時に履修したので、1 期目か 2 期目にあたると思います。あの頃は戦後から数えた今宮 53 期という数え方が一般的で、3 期生と称するのは今でも違和感があります。さて、当時は小山先生からの投げかけでやり取りすることはあっても、プレゼンやグループワーク、他校の教員を前にした課題発表などはあまりなかったように記憶しています。10 名くらいの受講生と普通の教室の半分の狭いところで黒板があっという間に真っ白になっては消され、それに追いつくのに必死にノートを取っていました。総合学科という学校関係者からもよく分からないと評され、伝統校ながら少し凋落気味にあった今宮高校を府内全域募集の総合学科で再起させようとした頃でした。先生方も生徒も、今宮高校だけでなく、総合学科を成功させようと奮起していたのかもしれません。「私たち」は今宮ならではの授業科目としてスタートし、この 25 年の間に国語教育を試行錯誤しつつリードする授業になっていったように拝見しました。よもやこれほどの長期にわたって展開されるとはつゆほども思っておりませんでした。先生の黒髪が白さを増していることに時間の経過を禁じ得ません。しかし、「私たち」の草創期を知る者としては、先生の熱量は相変わらずで、黒板前を無尽に、空いているところにチョークで書くところはお変わりない印象です。　昨今は多様性や個性が尊ばれる時代になっています。VUCA の到来とも言われています。25 年前の「輝け個性　磨け知性」という今宮のキャッチフレーズがようやく時代とフィットしてきた感じがあります。しかし、社会に出るとやはり個性よりも盲目従順さが求められ、多様性も個性も総論賛成各論反対が多くを占めます。その中で、ここで培った様々な人脈や教養を公私問わず生かせることができれば、それぞれを尊重するという基盤が生かせることができればいいなと思っています。

総合学科 4 期

3.今高生は、自分の意思を強く持っている子がとても多かったように思っています。芯が強く、しなやかで簡単に折れません。だから、私の周りでも夢を実現できている人がとても多いと思っています。

総合学科 7 期

4.総合学科という、自分で授業を選択するという仕組みがその後の進路選択や就職後の選択にも生きて

いると思います。

自分で取捨選択して学ぶということを、高校生活で経験したのかなあと、今になって思います。周囲に流されて失敗するのも、ゴーイングマイウェイするものどちらも学びなのだと。結局、自分の立っている場所から一歩づつしか進めないのだと、社会人生活を 15 年送ってわかりました。

5.「私達」を受けたために（おかげで）先生になった

総合 7 期　西口　直樹

「今宮高校に入ってよかった！」と思えることはいっぱいある。その 1 つが「こんな人は中学までには出会えなかった！」という人との出会いだ。もちろん友人。今も今宮の友人とは、当時の高校生のような雰囲気で付き合っている。今も良い刺激を与えてもらっている。

出会いは友人だけでなく、先生も。その代表的な先生が、小山先生だ。明るい笑顔で油断させ、高校生には高いハードルの課題を「君たちならできるよね」と突きつける。不思議なことに、「ほな、やったろか」と思わせる“人たらし”なキャラクター。

そんな小山先生の「私達」の授業。当時、それなりに自信があった読解力も全く歯が立たなかった。ただ「分からへん、やめとこ」とはならず、「これを頑張ったら何か違うステージに上がれるのでは･･･」と知的好奇心が刺激をされたことを覚えている。

「であることとすること」の課題は、社会科の資料集（当時はスマホとか無かったし･･･）を使って調べたり、先生に質問に行ったりした。今まで意味不明だった本文が少しずつ、理解できたときの達成感。それを体験させる仕掛けが「私達」にはあったと思う。

学ぶことで、言葉遣いが変わったり、自分にとって大切なものが変化した気がする（あくまで、そんな気がする）。休み時間に難しい本を読んでいる姿が「小恥ずかしい」ではなく、「知的な“背伸び”」をしているとなった。意識的に“背伸び”をすることは大切だと、今も思う。

そんな小山先生の影響を受け、高校教諭となった。ありがたいことに総合 19 期では、小山学年の担任として勤務することもできた。現在、学校設定科目「もうひとつの現代社会」という講座を開いている。今宮の特色ある授業といえば、「もう現」をめざして頑張っている。

ここで、「もう現」を宣伝することは「相応しくないかな･･･」と考えた。ただ、どんな場面でも“ベタベタ”とアピールする姿勢も小山イズムの影響ではないか。「こんな先生、今まで出会わなかった」「こんな授業なかなか、ないで」そう思ってもらえるように、頑張っていきます。「私達」25 周年、おめでとうございます。また、授業を担当していただき、ありがとうございました。

総合学科 8 期

6.今宮高校で出会った友人は一生の友人になりますので、沢山友人を作って沢山遊ぶとよいですよ。

7.”輝け知性、磨け個性“

入学からずっと変わっていない今宮高校のこのスローガンがとても好きだ。

同期生も、輝く知性と個性を持っている人々で溢れていた。

社会に出た後のことを聞き齧るに、海外に渡った人、陶芸を志した人、パティシエ、写真家、漫画家になった人と、バラエティに富んだ個性豊かな道を選んだ人が多い。斯くいう自分は職業という面ではと

ても一般的なところに落ち着いてるが、仕事とは別の部分において一つ大きな人生の選択をした。

昨今の時代の流れは、いろんな“多様性”が受け入れられ、マイノリティとして苦しんでいた人々が理解されるようになり、様々な人が生きやすい社会へと少しずつ変わっていっているように感じる。しかし、個より集団の声がまだまだ強いのが日本という国の風土だと思う。

輝く知性を持ち、自身の個性を磨きをかける今宮高校の在校生、卒業生の皆々様におかれては、出る杭として突き抜け、長いものに巻かれない輝きを持ち続け、様々な人が生き辛さを抱える中で

“こんな生き方もあるんやで”、と社会の一隅を照らす存在として立ち続けて欲しいと願ってやまない。

総合学科 9 期

8. 自由でありながらも、授業や行事、部活をはじめとする学校生活を自分達で考えて行動する自主規制の校風は、社会に出た今でも身体に染みついていて、必要な時に必要な行動を取れるようになりました。

普段何気に過ごしている毎日を大切にして、卒業してもまた来たいと思える学校を、在校生のみなさんで作っていっていただきたいです。

総合学科 10 期

9. 授業では、「私達」以外では、M先生の「こころ」、Ｊ先生の「伊勢物語の芥川の段」、Ｊ先生の「源氏物語講読」、Ｊ先生の小論文の授業。

お世話になったのは、英語のＳ先生、保健室のＤ先生、書画部のＨ先生。

教育実習ではＫ先生にお世話になりました。いまだに教育実習の実習簿を持って、各校を異動しています。マイルストーンとして持っています。

磨け知性輝け個性は今でも私の中に残っています。

いつか母校で教鞭をとりたいです。

10. 今思えばこうだったなと思うことが多々あります。

大きな海の中に落とされた気分が今宮高校に入った時の感覚でした。

結構日々溺れていたかもしれません。

主体的にたくさん学び、知識を吸収したいという意欲はあったものの思う様にいかないことが多かったです。でもただただ一生懸命でした。部活動も一生懸命でした。

私(個)として自分で成し遂げることに一生懸命動いてた感じもあります。

もっと仲間と楽しんでもよかったのだろうなと今懐かしむことがあります。

教員とももっと話せばよかったんだなと考えたりもします。

しかしながら当時はその力が上手く養われてなかったのかもしれません。

私達の授業で取り扱っている文学を通してでは自分の心に沁みるどころか何故か滲みるような妙な痛みを持っていました。それだけ当時の自分の心は貧弱で荒れていたからかもしれません。

11. 今年頭に帰省した際、たまたま村上陽一郎「歴史としての科学」のプリントを見つけました。「当時の方が勉強してたなあ」と思って記念（？）に自宅に持って帰ってきたんですよね。なのでアンケートをお送りいただいた時に「めっちゃタイムリー！」って思いました。珍しく実家の片付けをしたこともそうだ

し、日ごろちょっと気になっていることを改めて確かめたくて、久しぶりに「歴史としての科学」が読みたいなあ、と思っていたことも。なにかに呼ばれたんでしょうか。

今わたしは特段文学や哲学に携わるような仕事もしておらず、ちょっと演劇とか音楽が好きな、ごく一般的な会社員をやっています。学生時代に勉強したことを思い出したり気にしたりということは普段なかなかありませんが、もうちょっと深くこの作品のことが知りたいな、今お喋りしている相手の話がわかるようになりたいな、と思ったとき、そんじゃ次どうしようかな、で頼りになる授業だと思います。直に答えをくれるというよりも、多面的な考え方や捉え方をするための道しるべをくれるというような。学生時代から時を経ても変わらず、思考の支えにすることができる授業です。

特にグループワークでの「複数名で時間をかけて同じテキストを読み込む→それを発表する」を、大学に上がる前に体験できたのは、とても得難いものでした。今宮の授業はそういう授業が多かったと思います。自分たちはかなり自分たちのやりたいように発表を組んだ覚えがありますが、小山先生にもほんとうにあたたかく見守っていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

変化が激しく目まぐるしい今の時代に、これからこの授業に立ち向かえる学生さん方が羨ましいです。いつか必ず「頼りになる」授業です。ぜひ楽しんでください。

12. 自分たちの力で様々なことを作り上げる経験ができたことは今の力になっています。

13. 私はあまり良い生徒ではなくて、いつもバイトや自己学習に夢中で、全然学校に来ない出席日数ギリギリの生徒でした。

でも、今宮高校の先生達は、そんな私を咎めることもなく、どうすればこんな私がこの社会で生きていけるのか、私の想いや考えを尊重し、温かく見守りリードしてくださっていたように思います。

そんな私でも思うのは、自分で考え、行動する力。社会に出てから凄く大切で、必ず必要とされるこの能力は、今宮高校で生活する中で身につきました。

それは特定の授業の中ではなく、今宮高校の校風やカリキュラム、個性豊かな友人達や先生たちと生活する中で、総合的に育まれた力だと思います。

今の時代を強く生きていくための人間力のようなものを、知らず知らずの内に身につけることができる、それが今宮高校総合学科であり、私の母校です。当時の先生方や友人達に改めて感謝の想いでいっぱいです。

総合学科 11 期

14. ①学年主任の先生に「入学時から一度も全校集会などの開始時刻が遅れたことがない、ずっと遅刻しないための行動をとり続けてきた。だから僕はあなたたちを信頼できるようになった。この信頼はあなたたちの行動が勝ち取った（大意）」と言ってもらえたことが心に残っている。親しくないのに「信頼している」と言う人を私は信頼できなくなった。

②あまり怒ることのない生活指導の先生に全校集会で怒られた。内容はあふれんばかりのごみが入っているごみ箱のごみ袋を誰一人変えなかったことだ。その集会の後から、ごみが積み重ねられたごみ箱の写真と「まだ捨てますか？」という文字が書かれたポスターが廊下に張られた。それ以降、ごみ箱はごみであふれかえらなかった。

今宮を卒業してからも、これ以上捨てられないというごみ箱を見ると、このポスターを思い出す。今でも家や職場のごみ袋でも積極的に交換している。すべてのごみ箱の周辺にこのポスターを貼りたい。

③1 年生の時、私のチームがディベート大会の学年代表に選ばれた。優勝するために同じチームの仲間と相手チームからの反論に言い返す台詞をひたすら考えた。

ある日、ふと、このディベート大会に勝って嬉しいのかと我に返った。というのも、相手の意見も正しいのに、それを認め、自分の意見を変えたら負ける大会だからだ。

その時の議題は「高校での制服廃止の是非」だった。私たちが実際に行動を起こせば、制服も廃止できる可能性を秘めている、そんな高校生活に密着したテーマだった。当時の私の立場（反対派か賛成派か）は忘れたが、日常生活で、ディベート大会のような話し方で私の意見を主張したとき、私の意見は通らないだろうと思った。当時の私はディベートへの熱量がすごかったし、勝つことだけを考えていた。でも本当に大切なことはみんなが納得することである。誰もがよい高校生活を送るために考えていることを話しているだけなのに、反対意見を持つ人と寄り添うことは一切考えなかった。相手の意見を受け入れ、誰もが納得できるような折衷案を出すのが良い道だと思った。

結果、優勝したが全然嬉しくなかった。でもあの時、勝ちにこだわって優勝していたら、私は自分の意見を通すことに自信がついて、ディベート大会時の強い口調の人間になっていたかもしれない。

④私は高校に入学するまで体育が苦手で、体育を楽しいと思えたことがなかった。今宮の体育の授業は分野別の選択制で 3 年生の時にサッカーを選択した。サッカーを選択したほとんどの人がサッカー未経験者だった。先生も自主性を尊重してくれていて、私たちに注意することはほとんどなかった。コートの範囲もあいまいで、ボールが遠くに飛んで行った時もグランドの端までひたすらボールを追いかけた。私の失敗や下手さを誰も責めなかったし、みんな素直にサッカーを楽しんで、よく笑っていた。

体育は楽しくて自由なんだと気付かせてくれたのが今宮だった。

15. アンケートの回答がすっかり遅くなり大変申し訳ないです。結果に反映されなくても大丈夫です。

わたしは受験期特有のメンタルの不安定さでよく「私達」の授業を欠席してしまったので内容をとてもはっきり覚えている、ということは残念ながらないのですが、放課後に時間をやりくりしながらグループで協力して読み解いたことはとてもよい思い出です。

今宮での学びで生きている点は、時間割や修学旅行の行き先等、自分で決めることが多かったところかもしれません。日々、大きなことから小さなことまで決めることの連続で生きていますが、先を見据えて自分でたのしい、よりよい予感がするほうを決めることを鍛えてもらったように思います。

16. 高校生の時、新しいことに挑戦したいと思い

スペインへ留学することを決めました。

そのおかげで新しいことをする不安や心配よりも

挑戦した後の自分の変化が気になるという感情が大きくなり

今、台湾にいます。

大学を海外にしたことが自分にとって良かったのかは分かりませんが、台湾の大学にして良かったと思えることはこれから増えていくと思います。（今とっても幸せで楽しい日々をおくっているので！！！）

だから高校の時に勇気を出して留学に行くことを決めれて良かったしかったし、行きたい！！と思ったら許可してくれる高校で良かったし、否定しない人ばかりの今宮高校で良かったです！

新しい事に挑戦するのにピッタリの高校だと思います！！

総合学科 12 期

17. 今宮高校での学びが、（「私達」に代表されるように）既存の価値観を問い直し、主体的に「学ぶ」力を養成するものであったことはすでに書いてしまったので、もう少し具体的な例をお話したいと思います。

進学校でありながら総合学科であるという今宮高校の特徴は、大学入学後、非常に大きなポテンシャルになりました。というのも、大学以降の学びは、与えられたカリキュラムに沿って学ぶというよりも、自分で選択して主体的に学ぶという場面が格段に多くなるからです。同時に、演習という形で、自ら調査や分析を進め、他者と協力し合って課題をこなすという場面も非常に多くなります。大学だけではなく、様々な場面で、自ら課題を発見し、その解決方法を考えて試行錯誤する力が必要とされる場面はたくさんあります。他者とコミュニケーションを取りながら課題解決を目指すことが重要な場面は非常に多いです。

こうした場面において、今宮高校で培った能力は非常に役に立ちました。大学入学後、突然「自分で学んでください！」と言われ、はしごを外された気持ちになったという友人も何人かいましたが、その点、自主的な学び方を知っている私は、非常にスムーズに大学生活になじめたと感じます。

あととても単純に、すごく楽しい高校生活でした！

総合学科 14 期

18. 人生において多分な影響を受けています。1 年次に必修科目であった産社では社会の持つセーフティネットの仕組みについての講義など、実践的な生き方を学びました。これは数年前、危機的な事態に陥ったときに大いに役立つこととなりました。

19. 「私達」の授業中に小山先生が話されていたことでよく覚えていることの 1 つに、吉本興業所属のお笑い芸人ロザンのお 2 人が今宮高校を訪れていた（先生が呼んだ）という話があります。その時のことが、菅さんの著書「身の丈にあった勉強法」の中に書かれているので、以下、引用し紹介します。

（「身の丈にあった勉強法」菅広文　幻冬舎　2017 より抜粋）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

芸人になり、とある仕事で、僕らが高校の時に国語を教えてくれていた先生と喋る機会がありました。

僕はある疑問があり、先生に聞いてみました。

「先生。点数はどうやってつけていたんですか？」

というのは、うちの高校の国語のテストは少し変わっていて、問題が 3 問だけだったのです。

1 問にだいたい 1000 字ぐらいの解答を書き、先生に採点をしてもらうのです。

先生ですから、100 点だと判断する基準を持っているとは思っていましたが、単純に採点方法がずっと気になっていました。

そして、先生が驚愕の事実を僕に伝えました。

「宇治原を基準にしていた」
意味がよくわかりませんでした。
僕が不思議そうにしていると、先生が教えてくれました。
「まず、宇治原の答案を見て、宇治原がこれくらい理解しているのならみんなはこれくらいだろうと点数を決めていた」
聞くべきではありませんでした。
どうやら僕の国語の点数は自分の力ではなく、宇治原のさじ加減により決まっていたのです。
「なぜ、今教えるのだ!?」と思いました。
高校生の時に聞いていれば、宇治原に手を抜くように頼んでいたのに。
先生と喋っていて思い出したことがありました。
高校の時から、その先生の宇治原びいきには目を見張るものがありました。
休み時間のことでした。
僕は宇治原と廊下で喋っていました。
それはそれは楽しくおしゃべりをしていました。
先生が僕らのところに来ておもむろに言いました。
「宇治原君。君はコップでたとえたら、まだ半分も水が入っていない状態やわ。まだまだ知識という水を入れることが出来ると思うよ」
今から考えると、休み時間に僕と喋っていないで勉強しなさい、と暗に言いたかったのかもしれません。
先生からすると身分が違う２人が喋っているように見えたのでしょう。
江戸時代の寺小屋の先生が、上級武士の子供と下級武士の子供が喋っているのを咎めることに似ているかもしれませんね。
その当時はそんなこと考えもつかない下級武士の僕は、へらへらしながら先生に質問しました。
「先生。僕はコップでいえばどれくらい水が入っている状態ですか？」
先生が答えてくれました。
「菅君。表面張力。いっぱい。いっぱい」
なんてことを言うのでしょう。
確かに表面張力だったのかもしれません。
でも生徒になんてことを言うのでしょう。
もう知識は入らないと言われたのです。
もし僕が精神的に弱い生徒なら、次の日から学校に来ないことでしょう。
でもさすが先生です。
生徒の性格を把握しています。
なにも落ち込みませんでした。
なんなら「上手いこと言うなあ！　さすが先生！」と尊敬してしまいました。
そんな先生に、僕の国語の答案の印象を聞いてみました。
先生の僕の答案の思い出です。
「自信がないのか、字が薄い」。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

（小山先生から直接聞いていたお話もこの通りでした。）

さすが芸人さん、おもしろく書きはるなぁ！とも思いましたが、私は直接見ていないのにも関わらず、この場面を容易に想像できてしまい、小山先生らしさも感じました。

この会話が今宮高校の中（たしか、場所は新自彊館）で行われていたこと、私も高校時代にロザンのお2人と同じ先生の授業を受けていたこと、私も菅さんと同じ大学に進学したこと…等、もしロザンのお2人にお会いできる機会があったら、直接お話したいと思い続けています。

（ロザンのお2人は、火曜日の午前中にJR大阪駅付近で道に迷っている人を案内するロケをやっておられるので、会いに行きたい（「まぁまぁやな」と言われたい！）と何度か画策しましたが、まだ達成できていません）

総合学科15期

20. すみません記述方法まちがいました。

忙しくて書き直す時間がなくてそのまま送信させて頂きます。

21. 今宮高校の学生はとにかくよく話しながら考えた思い出がある。1人で集中して勉強したことよりも、友達と考えを伝え合ったり教えあったらしたことが力になった。特に、社会情勢についてや、行事に向けた話し合いなど明確な答えがあるものではなく、ひとりひとり解釈が異なるような事柄については、互いの意見を否定せず受け入れ合う姿勢があって、安心して自分の思いを伝えることができた。そして周りの人の様々な意見があることを知り、それを受け入れる大切さも知った。この学びは自分にとって非常に大きく、仕事では、幼稚園で子どもたちにもそうなって欲しいと思いながら保育をすることができた。

総合学科16期

22. 執行部で執行部らしく在れたことはとても良い経験でした。

この授業で印象に残っているのが、普段学校生活ではあまり話さなかった子達、授業がなければ関わることもなかったのではないか、という人達と同グループになって議論し、個人的な話も含めて共有しあったことです。自分の考えを積極的に聞いてくれ、理解してくれました。考えることを好きになれたのは、彼らのおかげでもあります。同じ教材を読む、という1つのきっかけから、相手を知ること自体を楽しみましたし、グループの人達の、創造的で、優しくて、積極的で、時に保守的で、革新的な考え方を知ることは自分自身の幅を広げてくれたと思います。また、相手を知ることが授業での発表の良し悪しにも影響していたと思います。グループの人達のことが大好きになりましたし、何かを誰かと一緒にやり遂げること、その楽しさ、その方法についても授業で学べました。それは今仕事をしていて、また生活をしていて、最も大事だと感じることの1つです。

総合学科17期

23. 色々ありますが、自分にとって印象的な学びの一つとして以下を挙げます↓↓

今宮高校は強い個性を持った個人が一つの場所に集っているため、否が応でも一度は交流する機会が

ある環境だと思います。その環境においてうまくやっていこうとする過程で、自然と互いの個性を認め合う経験を重ねることができました。結果的にその経験が社会に出てからも人々の多様性を受け入れる土壌になったと感じています。

総合学科 18 期

24.総合学科の良さは、大人になってわかるような気がします。どう良いかは皆さんもその時に感じてもらえれば笑

25.自主的に選択して学び、活動に参画したり、挑戦できる場として今宮はとても良いと思っています。
　もちろん自分で選ぶことで多くの人がそれぞれの失敗、恥ずかしいことや悔しいことを経験します。ただそういった場として高校を利用するのはとても良いと感じています。大人になると傷が深いですし、これから大学や社会で起こることへの学びの蓄積が小さくなってしまう気がするからです。
　またどの職業に就いても、社会では自主的に活動することが期待されます。自主的に活動するとは言うなれば「自分で切り拓いていくこと」や「自分で人生の舵を握ること」そのものだと考えています。
　人生を納得感を持って過ごすために必要な土台づくりとして、今宮で 3 年間を過ごせたのはとても貴重だったと思いますし、今宮を選んでいなければ今の自分はないなと強く感じています。

総合学科 19 期

26.今宮高校の生徒に考え自由に学ばせる校風は本当に素敵だなと、今も思っております。授業を始め、選択する機会が多かったので、自分自身で考え決める力は、大学での過ごし方や、就職、仕事中の些細な決定においても活かされていると感じております。何事においても悩むことはしんどいことですが、それは今後生きていく上での力になりますので、自分自身と向き合うことはやめてはいけはいと思います。
　また芸術を大切にしてくれる学校だったという思い出があります。高校を卒業してからは、自分から求めないと芸術作品には出会えないので、そういった意味で学校中に作品が飾ってあったことは、恵まれた環境だったと思っております。人にはそれぞれの心の救いがあるかと思いますが、私はそれが芸術であり、高校生の時にそれに救われたからだと思います。働いていても心の支えになるものに出会えたのはありがたかったなと思います。

27.今となってはどんな出来事も最高の思い出です。
　現在、仕事で色んな高校さんに高卒求人を届けに周ることがありますが、車で訪問した際、走って門を開けてくれたりする学校さんはありませんでした。高校の伝統として「来客があれば走って門を開けに行く」これを皆が笑いながら進んで行っていた自分の高校は実は凄かったんだなとしみじみ思います。また、きちんと挨拶をしてくれる学生さんもほとんどいません。在学中は当たり前と思ってやっていたことが、実はなかなか高い水準であったことは驚きと共に嬉しさがあり、あまり人には伝わらないことだけれど、胸を張りたいなと思います。

28.Web 回答の際にきちんと書き切れなかったため改めて郵便でお送りします。提出期限を過ぎてからの送付になり申し訳ございません。

（7、8 の回答？とお手紙を混ぜたような内容です。自由です笑）

小山先生お久し振りです。私は関西大学法学部に進学した後、損害保険登録鑑定人として働いています。

保険会社からの依頼で保険事故の調査を行う仕事で、火災後の建物に入ったり漏水調査のために床下に潜ったりと高校生のときには想像していなかった仕事内容です。

「私達が立っている場所」開講 25 周年おめでとうございます。今宮高校での思い出は色々ありますが、1 番印象に残っているのはやはり「私達」の授業だと思います。当時は意識していませんでしたが、あの頃の私は本を読んだり、ニュースを見たりして感じたことや考えたことを、とにかく誰かに話したい、議論したいという気持ちで溢れていました。

ですが、友達でもそういう話が出来る子は中々おらず、まして大人相手には絶対無理だと思っていました。だから「私達」の何でも自由に話して良いという授業内容は私にはとても嬉しく、楽しかったです。

細かな内容は忘れてしまったものも多いですが、私が「私達」を通して学んだことは

・どんなことでも意見を主張する際には根拠が必要である。

・絶対の正解はほぼ存在しない。

・過去に誰かが発見したことでも、自分の身を持って真に理解することには価値がある。

以上 3 点です。これは、大学生でも社会人になっても折に触れて思い出します。そして、これを知らない大人が結構いるということを実感して驚きました。この 3 つを学べた私はとてもラッキーだと思います。

この先色々とあると思いますが「私達」で学んだことは都度私を助けてくれると思います。

今は香川県にいるため中々大阪には戻れませんが、また文化祭の時などに学校へ行きたいです。その際先生にもお会いできたら嬉しいです。

お体に気をつけて小山先生のパワフルな授業を続けてください。

総合学科 20 期

29. 個性を大切にするという点と、自主性は今宮高校を通して学びましたし、今高生の良い点だと思います。自由度の高さが入学の決め手でしたが、正解でした。何でもしていいということではなく、最低限のルールを全員が守るからこそ自由が成り立っているということを感じれた 3 年間でした。今宮で身につけた個性と自主性は今でも生きていると感じます。

総合学科 21 期

30. 当時 3 年生で授業を受け、受験の科目で現代文を多く受けたので、文章を読みとく力を小山先生の授業で付けることができたと感じる。おかげで志望校へ行くことができました。

総合学科 23 期

31. 私は今宮高校で生活する中で、たくさんの先生方にお世話になりました。3 年生の頃、学習塾などに通わず大学を目指す身として、不安に思うことがたくさんありました。しかし、多くの先生が講習会を開いてくださり、それらに参加していると自然と先生方とお話しする機会も増え、教科に関する質問も、それ以外のお話もたくさんすることができました。私は教員を目指していますが、「気軽に話しかけること

のできる先生」で在るというのは、簡単なようで難しいです。今宮高校の先生方がそうであったように、私もそんな教員になりたいと思えています。私の理想の教師像です。

32. 自分の意見をなかなか言えない子がいて、恥ずかしくて言いたくないのかな、と思っていたけど、言葉にするのに時間がかかる人もいるのだと気づけた。
　人の話に口出しせず区切りまで聞く、わかりやすいように文章をまとめようとする、という意識はテレワークでチャットで聞く際に役立っているとは思う。

33. 自分の人生や生活の中の指針として「私たち」の授業で学んだことが根付いていることを感じています。また、「私たち」の授業に限らず、今宮高校の生活のなかで、自由や権利、主体性というものについて身をもって学ぶことが出来て本当によかったなと思っています。

総合学科 24 期

34.（拙い文章ではありますが、なるべくダイレクトに私の高校時代に体験し、感じたことを綴りました。これが誰かの励みになるならば幸いです。）
　僕にとって今宮高校での学び・成果は、これからの人生においても大きく位置づくことになると確信しています。僕が感じた高校生という時期は、自分の中の「大人」という存在が徐々に姿を現し始め、世の中の物事がどうなっているのかを感じざるを得ませんでした。
　入学当時、僕は同性の意中の人にフラれて、そのショックと自己嫌悪とで、不安定な状態でした。高校生の僕にとって、同性愛者であることを告白し、さらに彼への好意まで伝え、断わられるという経験は、それまでの純粋でエネルギッシュな世界が終わることを意味していました。つまり、その時点で僕は「子ども」でいることは難しくなったのです。
　丁度その頃、両親の仲も悪くなり、いつの間にか喧嘩の絶えない家庭になっていました。時には暴力もありました。しかし、その事実に目を向けられず、談笑する家族の姿だけを想起させては、仲の良い家庭であると自分に言い聞かせていました。
　しかし、あることをきっかけに、それも限界が来ました。父があまりにも理不尽なことを言うので、僕は「お前」という言葉を使いながら、父に苦言を呈しました。父は、「お前って何じゃ。」と僕を怒鳴りつけました。他の家族にもそれはいけないと言われて、謝りました。しかし、後日また、理不尽なことを言っている父に対して兄が「お前」という言葉を使っていました。僕は兄にも問答無用の敗北が訪れると思いましたが、父は言うことを素直に聞いていました。
　父は道徳で僕を叱ったのではありませんでした。父は、自分のプライドが傷つかないことを常に優先して言葉を発しているのでした。それに気づいた時、私は深く傷付きました。一番身近な存在だった父が、どうしようもなく僕を絶望させる存在だったのです。僕は、ただ僕を締め付ける不明瞭な事実にうなされることしか出来ませんでした。こんな世界で生きていくしかない冷たい「大人」になるのが嫌で仕方ありませんでした。
　そんな僕を救ったのは紛れもなく、「言葉」であったと思います。今宮高校での現代文・倫理・私達が立っている場所などの授業で学び得た言葉は、どれも僕の身の回りを説明するのに十分なものでした。特に、倫理の「構造主義」と「実存主義」、私達の『文学のふるさと』で学んだ概念は僕に強く影響を与

えました。また、暗い現実を説明するだけで終わるのではなく、今宮高校はそれを発表する機会を与えてくれました。今高生の主張・課題研究では、僕の体験談を、一般的に通づる理論に展開し、果たしてどこに希望を見出せるのかを自分なりに発表することができました。卒業式で総合学科優秀者として表彰された時には、暗い現実の中を這いながら進む方法を、差し当たってではありますが、確立することができていました。

当時、『君たちはどう生きるか』の発表において、僕は大人になることについての考察を行いました。そこでは、「大人になるということは、経験を通して構造の存在に気付くことであり、大人はまたエネルギッシュで実存的な子供時代に戻っていくべきだ。」と唱えました。二十歳になった僕が最近気付いたのは、「子供時代のエネルギーは消えることはなく、言葉や思想(対話や「大人の仕事」)で勇気へと変換するべきだ。」ということです。僕は僕なりに、嫌いだった大人になれたような気がしています。これも、今宮の学びが生きる僕の生活から得た答えです。

苦しいことも多い時代だと僕は感じていますが、苦しみには必ず学びが伴い、その先にこそ成長、希望や幸福があるのだと思います。これからも今宮高校で学びを得る生徒のみなさんに幸多からんことを祈っています。

35.大学の授業でもグループで話し合い発表する機会は沢山ありますが、1 番自分が能動的に学びの姿勢で取り組めたのは私達の授業だったなと、今までを思い返すと改めて感じます。

一授業のためにわざわざ放課後に集まり話し合い、仲間内での認識の差を削り合い、先生チェックをして確認し、また授業に備えて続きを読み解く。これほど面倒なことを途中で投げ出すことなく 1 年やり遂げたのは、めんどくさがり屋の私と、また人見知りの私にとってはかつてないほどの偉業と言えます。

やり遂げれたのには理由があります。私達の授業を取る他の生徒達です。彼らもまた能動的でした。こんなにめんどくさい授業なのに、部活を押してでも放課後に図書館にやって来て、活字と向き合っていました。これだけやることの多い授業にしては、サボったり逃げたりする生徒はほぼいなかったように記憶しています。小山先生の圧があったとも言えますが、グループや教室の生徒がみんな頑張ってやってるから、私もちゃんとやろう、という気持ちで自分でも能動的に授業に参加することが出来ました。

言葉にするとただ流れでやれただけ、のようになってしまいますが、この「流れ」がどれだけ凄い力を持っているか。

私達の立っている場所、の授業は文章の読み解き方を能動的に学べる環境になっていました。国語以外でも自分の取り組みに対する気持ちを良い方向に持っていくにはどうすればいいかと考える時、この授業の雰囲気を思い出しています。

これからの大学生活でも、社会に出ても私達の授業を時々思い出して、良い取り組み、読み解きができるよう励みたいです。

36.確実に身についた能力の 1 つとして「文章を読み込む力」があげられます。「私達が立っている場所」の授業でとても印象に残っているのは、題材について同級生と濃い話し合いをしたことです。Q&A、またその先にある全体発表を見据えて、自分たちの題材に対する理解を確固たるものにするために多くの時間を費やしました。また、普段以上に他の班の発表も聞きました。いつもなら、なんとなくでしか理解していなかった題材も、「私達が立っている場所」を受けたことで題材の裏にある作者の意図、また題材を

選択した者の考えまでも読み取ることが出来ました。

37.今大事なことは何かを常に考えることができ、それを言葉で誰かに伝えることができる。

38.私達の授業について、これは少なくとも精神的には有意義な感触が得られそうだぞと、勝手ながら授業目的から外れた個人的な充足に偏った気持ちもありました。回が進むにつれて、授業で取り上げられるテーマには、自分の価値観と似ている部分があるのではないかと考えるようになったからです。おそらく、最後まで当ては外れなかったと思います。当時、最後の授業の発表で、自分は「自身の状況に甘んじることも不満だけ募らせることもしないよう意識し、自身に付与された状況を解決しがいのある課題を『ギフト』とさえ思えるような人間になりたい」というようなことを発言しました。自身が配置される環境は生まれた時には決まっていて、その後の人生においても構造の中で生きていくしかないかもしれない。しかし、その入れ込まれたシステムの中で主体性を求められるのが人間であり、支配性を思い知るからこそ学ぶ意味を知り、課題を見出し解決していけることは、授業で学んだ根本的なメッセージ性の一つだと思っています。当時の自分はシステミックな環境に原因を求めた時、それらをギフトのように考えてみる信念があてにできるのではないかという一考がありました。生まれた時から背負わされたであろう欠点やハンデ、或いはそれらも含めた環境について、肯定する勇気を持てたなら、現実を認めてその中で自信をもって生きていけるかもしれない。今は欠点や短所に思えるものでも、この時代に生まれた自分が持ったギフトだとポジティブに肯定し、そんな自分をきっと好きになれる。そういったことを当時は考えていたのですが、授業で受け取ったテーマ性と類比すると他責的な側面もあり、今ではそう極端に考えることも難しいので、私達の学びを通して折衷できたのだと思います。簡潔に、生きていく自分を肯定するにあたって、まずそこに居る自分を取り巻くものを肯定できれば、自分をポジティブに捉えて、そこから学ぶ意味を探求できるかもしれないという考えができていました。

構造の中で主体性を求めるためには、そう生きていく意味を見出すには、現実の自分を肯定する勇気が肝要でしょう。生物学的には、人間を含む生命はDNAを次世代に受け継がせていく意味、目的があるといえます。しかし、『我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか』DNAが情報を未来に残す目的を人が知覚し読み取ることはできないのです。システムの根源的な目標さえ限りなくわかりそうにないのに、その下で生きる人間は勝手気ままに何かしら考えて過ごしている。そう思うと、開き直って今を好きに、必死に生きることは肯定できる気がしてきます。

自分が生きる意味なんて一生かかってもわからないかもしれませんが、学ぶ意味は生産を経て確かに見出せる。ノウハウや思考プロセスだけでなく、精神的な自己実現に関しても考えさせられたこの授業を受講できて良かったと、今もって思っています。

総合学科25期

39.今宮高校では、探究の授業のように皆んなの前で発表する機会が多かったので、大学でそのような機会があっても、緊張することなく高校の延長線上の取り組みだと捉えて臨むことができた。これは総合学科ならではの特徴だと思う。

40.今高生はみんなコミュニケーション力が非常に高く、行動力もあるので、コミュニケーションを取る

のが非常に苦手な私には、コミュニケーション力を向上させるのに良い場所でした。

また、どの授業でも発表が非常に多いので、人前に立つ経験をたくさんすることができたし、様々な分野の知識をつけることが可能で、今となっては非常に良い経験をさせて頂いていたなと感じています。

私の高校生活は辛いことのほうが多かったですが、友達たちと今宮高校で出会い、一緒に過ごせたことは、私の人生の財産です。

これからの今宮高校・今高生の益々のご発展・ご活躍をお祈り申し上げます。

41.授業で取り上げられた作品のように難しい文章を読んだことがなかったので授業内で読み解くことで難しい文章への拒絶反応が無くなったように感じます。

総合学科 26 期

42.今宮高校でのグループワークの経験が大学で活きた。積極的にグループをまとめ、良いグループを作ることができるようになった。

43.小山先生。ご無沙汰しております。
お手紙ありがとうございます。
お名前を拝見したときに
「行けたらに行ったもんなし！！」と
受験前に何度もおっしゃられていた、
あの声が蘇りました。
YouTube の動画も拝見して、
今の小山先生が
私が高校生だったときに見ていた
小山先生のままでびっくりしました！
私はその後、
社会に出て仕事をして
結婚して子宝にも恵まれました。
小山先生のように
情熱を持って仕事に
取り組み続けることが
どれほど大変で
尊いことなのか、
高校生のときには
感じとれなかったことを
頂いたお手紙を通して感じ、
感銘を受けています。
教師を続けていてくださって、
ありがとうございます。

いつまでもお元気でいてください。

44.今宮は総合学科であることから授業選択の幅も広く、勉強も学校行事も自由度が高かったです。そんな今宮高校で3年間を過ごし、大学に入りました。大学はもっと自由度が高く、自分のことには自分で責任をもって色んなことを決定し、実行しなければなりません。しかし自己決定においては今宮でもやってきたことだったなぁと感じました。大学で履修登録をする時には 1 度高校で授業を組んだ経験をしていたので不安に感じることもなく登録できました。

自由度が高いということは自分で考えることが多くなり、責任もすべて自分に降りかかります。しかしそれは社会に出てからだって同じことだし今のうちから慣れておくべきことだと思います。私は今宮である程度その基盤を築くことができていたのでその慣れるまでの不安などを感じずにすんでいるのかなぁと思いました。高校で過ごした3年間が大学生活でも生きていて、これからも生かしていける。高校生活全部通して良い経験だったなと感じました。

45.私達の立っている場所のグループワークを通して、今まで関わったことない人と協力する協調性が身についた。

締め切り間近ですみません。私たちグッズを楽しみにしています！！タオルかな？？？

QR コードの私達登録は期間が間に合わずできていません。

46.「文学のふるさと」や「安楽への全体主義」は

大学の授業を受けていたとき、こんな話があったな～とか

思い出すことがよくありました！

47.私は、受験を、総合型選抜で受けました。小論文+グループディスカッションをしました。小論文は「私たち」の授業で、培われた能力を本番で、最大限に活かすことができました。

（なんなら、「私たち」で取り扱っている、お題の方が難しいと思いました。）

そして、グループディスカッションでは、人前で緊張せずに話す+根拠を言う+相手の意見を取り入れて、話すことができ、見事に、国立大学に合格することができました。

私の合格は、「私たち」の授業なしでは、ありえなかったと思うので、「私たち」を開講してくれた、小山先生は、私の恩師です！

ありがとうございました、「私たち」大好きです！！！！！

6 P.S.

総合学科 3 期

・小山先生、ご無沙汰しております。

一度、「私達の立っている場所」の授業に卒業生として呼んでいただきました。まだ現役で今宮にいらっしゃることに驚き、嬉しく感じています。この授業を選択したのは偶然ですが、25 年経った今でも記憶に残っているほど印象的な授業です。

私は今、建築設計事務所とそれに併設して、時々町の保健室にもなるシェア型の私設図書室を運営しています。またどこかでお目にかかれますように。

総合学科 4 期

・ご連絡ありがとうございました。懐かしく拝見いたしました。

私は高 3 の夏休みに病気を患い、二学期はほとんど学校に行けなかったのですが、私達の授業はよく覚えています。考えても考えても難しく、書いても書いても納得できず、初めて国語が楽しいと思いました。

もともと、文学や物語を読むのは好きで、話の世界に入り込むことがよくありましたが、お話ではなくても、文章に向き合うことで自分の世界が広がることを学びました。

先生が、いつか「私達が帰って行く場所」にしたいとおっしゃっていたような気がします。どういう意図かよく分からなかったのですが、今も当時と同じような授業ですか？

総合学科 7 期

・小山先生も、そろそろ「先生」に一区切りでしょうか？長い教員生活お疲れ様でした。

卒業後あまり学校に寄りつくタイプではありませんでしたが、先生が「国語」「教えること」が好きなんだなと、信念のようなものを感じていました。子供を持つようになって、自分の子供にも信念のある先生から学んでもらいたいと思っています。

お疲れ様でした。ありがとうございました。

・大阪に帰省して、お手紙拝見しました。まさに締め切りジャストですが、よろしくお願いいたします。新今宮駅前の変化に驚いています。

総合学科 8 期

・専門学校を辞めた後で小山先生に会いに行って、今宮高校は就職先の紹介というのができないというのを言われて、途方に暮れたことを覚えております。そのときは知らなかったのですが、高卒で就職するのが一般的な学校だと就職先の紹介があるのですね。姉の友人の紹介で就職して、その後 2 回転職して今の職場です。水が合ったので勤続 12 年になりました（笑）

今だったらとりあえずハローワークにでも行くかぁ…と思えるのですが、あのときは何をしたらいいのかが分からなくて困りました。もし同じ境遇の子がいたら、学校を辞めた場合の支援がある、ということ

だけでも教えてあげていただけませんか。
これからもこの素晴らしい授業が若い子達のよい学びになると確信しております。

総合学科 10 期

・小山先生の存在は私の人生に影響をあたえています。ありがとうございました。

・ありがとうございました！

・25 周年おめでとうございます。
　とても懐かしい気持ちになりました。
　冊子を楽しみにしています。

・改めて高校生活を振り返る機会をいただき、ありがとうございました。先生からのメッセージ動画をみて、当時の授業の思い出など、強烈にフラッシュバックいたしました(笑)
　これからも、この授業を受ける生徒の皆さんが、大きく成長して豊かな未来を開いていけるよう、祈っております。

総合学科 11 期

・お言葉、ありがとうございます。
　ぎりぎりの提出、申し訳ございません。
　現在、お笑い芸人ロザンのファンでロザンの YouTube を毎日見ていて、時々小山先生のことを思い出します。
　欲を言えば一般向けに小山先生の講座を開講していただけたら嬉しいです。(私も参加したいです)
どうかお体にご自愛下さい。

・今回振り返る機会をいただきましてありがとうございました。
　あらためて、素晴らしい授業体験をありがとうございました。

・小山先生の時にユーモラスな授業がとても好きでした。ネクタイの柄を 10 種類集めてお菓子をいただいたのはよい思い出です。どうぞお身体に気をつけて、これからも素敵な授業を続けてください。

総合学科 12 期

・小山先生
　大変ご無沙汰しております。お元気でしょうか。そして、「私達が立っている場所」二十五周年おめでとうございます。卒業後何年も経ってからも、「私達が立っている場所」を思い出す機会を得ることができ、大変嬉しく、またありがたく思います。
　末筆ではございますが、先生のご健勝とご多幸、そして「私達が立っている場所」のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

総合学科 14 期

・本当にありがとうございました。現在港湾局（泉南管理担当）に居りますので、何かありましたらよろしくお願いいたします。

・小山先生へ

「私達が立っている場所」25 周年、おめでとうございます。

期限ギリギリの回答で申し訳ありません。

最初、実家にいる母から「今宮高校からの封筒が届いている」との知らせを受けた時は、何事か？！と思いました。今宮高校関連で届く郵便物はほぼ同窓会関連のもので、それは私と同じく今宮高校を卒業した弟にもいつも同じ物が届くのに、今回は私にだけ届いているというので、謎はさらに深まり・・・(笑)

封筒を開けて納得（弟は「私達」…というか国語系科目を全く選択していませんでした)。

今回の企画も、「私達まつり」というネーミングも、小山先生らしいなと思い、1 人で笑ってしまいまいした。

アンケートを回答するにあたって、「私達」のファイルを引っ張り出し、中身をパラパラと見ました。資料やプリント、授業内容については、よく覚えているものとあまり覚えていないものがありましたが、卒業して 10 年以上も経つのにキレイな状態で保管していた自分にスゴイなと思いました！

6 番の問で回答したように、仕事上や実生活で「私達」のことは度々思い出していましたが、それに加え、昨年、宮崎駿監督の最新作の映画のタイトルが「君たちはどう生きるか」だと聞いた時は真っ先に「私達」のことを思い出しました（それはきっと私だけではないハズ…！)。ちなみに私はこの映画はまだ見ていませんが、大のジブリ好きな弟は、「映画を見る前に『君たちはどう生きるか』を読みたい」と言い、貸しました。本は、「私達」受講当時の私がたくさん書き込みをしたり付箋を付けていたりしたまま状態で、それを見るのも懐かしかったです。

送っていただいた文章の中に載っていた QR コードから動画も再生し、小山先生の元気そうなお姿（変わらないですね！）も拝見でき、嬉しかったです（授業内容の共有、ありがとうございます)。

コロナ禍での「私達」はリモート授業だったということも知り、驚愕しました。リモート授業で「私達」は…！！！！当時の今高生達は（もちろん先生も）めちゃくちゃ大変だっただろうな・・・！とも思いましたが、私が受けていた今宮高校独自の特色ある授業がコロナ禍を乗り越えて今も続いているということは嬉しくもあり、誇らしくもあり、私も卒業生の 1 人として恥じないように生きていかなければと背筋の伸びる思いです。

私事ですが、この度、大学卒業後から約 8 年（学生時代のアルバイト期間も含めたら 10 年以上）勤めた職場を辞めることになり、現在、残っている有給休暇の消化中です。

次の仕事は決まっておらず、求職活動もこれからの状態ですが、仕事面だけでなく、今後の人生、私はどのように暮らすか、何をして生きていきたいか、何を大切にするのか、豊かな人生／楽しい人生を送るには…等、より良く生きていくために、広く深く考え続けていきたいと思います。

今後も、小山先生のそして今高生たちのますますのご活躍をお祈りしています。

乱筆乱文、失礼いたしました。

アンケート結果（冊子）の完成、心待ちにしています！

総合学科 16 期

・先生の御息災も同様に祈っております。

・小山先生へ

私は、卒業後も小山先生の研究会への参加、大学院生時代には、授業見学にも参加させていただきました。研究会の他の先生からは、教員としては、なんで国語科を選ばなかったの？という問いも受けました。その時には「国語には小山先生いるんで、、」や、偉そうですが、「いやぁ、、英語科を変えないと」、なんてことを答えていました。やはり見事に日本の英語科どうにかせねば、という大きな流れは、現在きているのですが、どうも過った方向に向かっているのでは、と感じています。問題意識があるのは良いことなのかもしれませんが、、。まだ新米教員ですが、今宮での学びを糧に、考えながら、ブレながら頑張っていきたいと思っています。動画での小山先生の見た目が 10 年前とお変わり無さすぎて驚きましたが、どうかお身体お大事になさってください。またお会いできる日を楽しみにしています。近くの四天王寺中高で教員してますので、是非とも機会があればまた今宮に遊びに行かせて下さい。

総合学科 17 期

・お久しぶりです。

送っていただいた用紙から youtube を見ました。背景に映る図書館の本棚を見たとき、一気に当時の記憶が蘇ってきて懐かしい気持ちに浸ることができました。

当時は今ほど物事をじっくり深く考える習慣や能力がなかったため、難しい話に必死についていったなあという印象に留まっていましたが、今思い返すと 1 つの話を徹底的に噛み砕いて解像度を上げていく取り組み程楽しいものはないなと感じています。まさに今だからこそ受けたいと思える授業です。貴重な機会をありがとうございました。

総合学科 18 期

・こちらこそ。ありがとうございました。

・「私達」の授業を応援する寄付などがあれば、させていただきたいです。グッズも楽しみにしております。またご連絡いただけますと幸いです。

記入が遅くなってしまい、申し訳ありません。素敵なお手紙を下さりありがとうございました。小山先生、どうぞご自愛ください。

・小山先生、素晴らしい機会をありがとうございました。

「君たちはどう生きるか」が映画化されたときは鳥肌が立ちましたし、誇り高かったです。もちろん映画館に観に行き、これまでを振り返ったり、これからを考えました。

今私は楽天グループでエンジニアをしており、在籍は丸 3 年（4 年目）を迎えました。

厳しい東京をサバイブしていく中で、考えても答えが出ないような問いやモヤモヤをたくさん抱えます。しかし授業で学んだこともとにして自分なりの答えを出し、強く生きられているなと感じています。これは教育を受ける本人からすれば、長期的にはテストで点数を取る以上に必要なことだと考えま

す。その影響を学校教育で与えられるのは簡単なことではないと思いますし、それゆえ他のどの高校にもないのではないかと思っています。

ぜひ授業を続け、仕組みを受け継いでいただき、これからも今宮で良かったと思う後輩を増やしていただければと存じます。

改めてありがとうございました。

総合学科 19 期

・この度はご連絡をいただきありがとうございます。そして、「私達が立っている場所」の開講 25 年、おめでとうございます。お手紙を拝見し、保管していた教材を読み直し、少し懐かしい気持ちになりながらも、今の自分はこの頃のように考えて生きていられているのか、薄っぺらい人間になってしまっていないか自問自答していました。そのため回答が遅くなってしまいましたが、少し先を生きている卒業生が、少しでも現在の今高生の励みになればいいなと思い、アンケートを回答させていただきます。「私達が立っている場所」を受講できたのは、今宮高校に通えて良かったなと思う理由の一つです。

小山先生の益々のご活躍をお祈り申し上げます。これからさらに暑くなりますのでご自愛くださいませ。

・久しぶりに高校の先生からご連絡をいただき、繋がりを感じられて嬉しかったです。

実は以前こっそり学校前を通りお見かけしました。お元気そうでなによりです。

今後も小山先生のご健勝をお祈りしております。ありがとうございました。

総合学科 22 期

・小山先生

ご無沙汰しております。

当時はダンス部の副キャプテンを務めておりました。今春から東京で BSTBS というテレビ局に勤めております。このようなご連絡をいただけて大変嬉しかったです。お身体にお気をつけて、今後もお過ごしください。

・何期生なのか、合ってる自信ありません。すみません。

総合学科 24 期

・今はデザイン科の学生をしています。グッズデザインでお手伝い出来ることがあれば連絡ください！もしくはグッズ完成しましたら是非買わせてください。

・期限を超過しているため、有効かどうか分かりませんがアンケート提出させていただきます。大変遅くなり申し訳ございません。こちらの手違いがあり、回答遅くなってしまいましたが、今回小山先生からお便りを頂いた嬉しさと「私達」が今宮高校で今でも継続されていることの驚きと懐かしさで、どうしても回答しないといけないと思いになりました。ありがとうございました。

総合学科 26 期

・一年間ご指導いただき本当にありがとうございました。非常に面白い授業で、楽しかったです。また機会があれば、もう一度先生の授業を受講したいです！！

〈 私達が立っている場所 〉

私達まつり
2024

To be continued.....

（さらに番組は続きます....）